

授業科目名： 物理学概論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山岡 武邦
			担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>物理学は複雑な自然現象の中からその本質を抽出する学問である。特に力学はその代表例であり、自然現象を数理的に理解する学問体系の一つである。本講義の目的は力学現象を理解する上で欠かせない力学の基本概念や基本法則を修得することである。加えて、中等教育理科の教育内容や教材を、本講義で修得した知識・技術と結びつけて、俯瞰的に捉えることを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>講義や演示実験ならびにグループワークなどを取り入れて、力学全般について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：物理学概論[微積分を用いた運動の表現]</p> <p>第2回：質点の運動学[速度と加速度]</p> <p>第3回：質点の力学[運動の法則]</p> <p>第4回：質点の運動1 [自由落下，粘性抵抗力のもとでの落下運動]</p> <p>第5回：質点の運動2 [単振動]</p> <p>第6回：質点の運動3 [減衰振動と強制振動]</p> <p>第7回：仕事とエネルギー1 [仕事と運動エネルギーの関係]</p> <p>第8回：仕事とエネルギー2 [力学的エネルギーとその保存]</p> <p>第9回：運動量</p> <p>第10回：力のモーメント</p> <p>第11回：等速円運動場面指導演習</p> <p>第12回：熱と温度</p> <p>第13回：熱力学</p> <p>第14回：中等教育理科の教育内容・教材との関連性について場面指導演習1 [質点の運動学を事例として]</p> <p>第15回：中等教育理科の教育内容・教材との関連性について場面指導演習2 [位置とエネルギーを事例として]</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 理科編』</p> <p>小出昭一郎（1997）『物理学〔三訂版〕』裳華房</p>			

参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

小テストおよびレポート課題：30%

定期試験：70%

授業科目名： 物理学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山岡 武邦
			担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>電磁気学の基本となる「静電場」を軸として、物理的な考え方・数学的な記述方法を習得する。物理学は複雑な自然現象の中からその本質を抽出する学問である。特に力学はその代表例であり、自然現象を数理的に理解する学問体系の一つである。本講義の目的は力学現象を理解する上で欠かせない力学の基本概念や基本法則を修得することである。加えて、中等教育理科の教育内容や教材を、本講義で修得した知識・技術と結びつけて、俯瞰的に捉えることを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>公式の丸暗記による解法ではなく、背景の物理と数式がリンクしやすいように、図などを積極的に使った授業を展開する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：序論(電磁気学への導入)，数学的準備</p> <p>第2回：静電場1 [クーロンの法則]</p> <p>第3回：静電場2 [静電場，電気力線]</p> <p>第4回：静電場3 [ガウスの法則]</p> <p>第5回：静電場4 [静電ポテンシャル]</p> <p>第6回：静電場5 [コンデンサーと静電容量]</p> <p>第7回：演習1 [静電場に関する演習]</p> <p>第8回：静磁場1 [オームの法則]</p> <p>第9回：静磁場2 [電流と静磁場]</p> <p>第10回：静磁場3 [ビオ・サバールの法則]</p> <p>第11回：静磁場4 [アンペールの法則]</p> <p>第12回：静磁場5 [ファラデーの法則]</p> <p>第13回：電磁波[マクスウェル方程式]</p> <p>第14回：演習2 [静磁場に関する演習]</p> <p>第15回：発展的課題[量子力学の誕生]</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 理科編』</p>			

小出昭一郎（1997）『物理学〔三訂版〕』裳華房

参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

小テストおよびレポート課題：30%

定期試験：70%。

授業科目名： 物理学実験 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 山岡 武邦
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験（コンピュータ活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>小中学校学習指導要領に準じ、物理実験や観察をすることができ、科学的な考察により結果をまとめることができる。正確に実験データを取り、数学的に解析することができる。必要な実験を計画し遂行することができる。自然科学で求められる様式のレポートにまとめることができる。</p>			
授業の概要			
<p>自然に対して興味や関心を高め、実験や観察を通して自然現象に対する科学的な見方や考え方を養う。特に、小中学校学習指導要領に準じた身の回りの物理現象、運動の法則、物質やエネルギーに対する見方や考え方を中心に考察する。興味関心を持って実験や観察を行い、それを通じて科学的・論理的な考察を行うとともに、コンピュータを活用して結果の分析と報告を行い、実験観察の過程を第三者にわかるように表現することにつとめる。</p>			
授業計画			
第1回：身近な量の測定			
第2回：結果の処理方法と誤差論			
第3回：コンピュータを用いたデータ処理とグラフ描画			
第4回：運動の観察1 [記録タイマーによる等加速度直線運動の観察]			
第5回：運動の観察2 [落体実験]			
第6回：レポート作成1 [等加速度直線運動]			
第7回：単振り子1 [周期と振り子の長さ]			
第8回：単振り子2 [振幅の大きい振り子の周期]			
第9回：エネルギー保存則			
第10回：重力加速度の測定1 [実験の計画，準備]			
第11回：重力加速度の測定2 [実験の実行，結果のまとめ，発表]			
第12回：レポート作成2 [重力加速度の測定]			
第13回：てこと人体			
第14回：光の屈折			
第15回：レンズの曲率半径の測定			
定期試験			
テキスト			

なし

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年告示）

学生に対する評価

小テストおよびレポート課題：40%

定期試験：60%

授業科目名： 物理学実験Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山岡 武邦 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験（コンピュータ活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>小中等学校学習指導要領に準じ、物理実験や観察をすることができ、科学的な考察により結果をまとめることができる。正確に実験データを取り、数学的に解析することができる。必要な実験を計画し遂行することができる。自然科学で求められる様式のレポートにまとめることができる。テーマ：熱、電磁気、光に関わる現象。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>自然に対して興味や関心を高め、実験や観察を通して自然現象に対する科学的な見方や考え方を養う。特に小中高等学校学習指導要領に準じた内容のうち、熱・電磁気・光などが関連する現象の見方や考え方を中心に考察する。興味や関心を持って実験観察を行い、それを通じて科学的・論理的に考察する。自然科学で求められる様式のレポートにまとめる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス，電流計と電圧計</p> <p>第2回：電流電圧特性〔(1)豆電球，(2)LED電球〕</p> <p>第3回：レポート作成1〔電流電圧特性（コンピュータを用いたグラフ作成，レポート執筆）〕</p> <p>第4回：コンデンサーの電気量・電池の内部抵抗</p> <p>第5回：熱の仕事当量</p> <p>第6回：ヤングの実験</p> <p>第7回：熱膨張〔(1)水の熱膨張，(2)空気の熱膨張〕</p> <p>第8回：レポート作成2 〔空気と水の熱膨張（コンピュータを用いたグラフ作成，レポート執筆）〕</p> <p>第9回：交流と直流1〔電気の仕組み〕</p> <p>第10回：交流と直流2〔回路の作成〕</p> <p>第11回：電位の測定</p> <p>第12回：音響の実験</p> <p>第13回：はく検電器</p> <p>第14回：霧箱の製作と放射線の観察</p> <p>第15回：パワーポイントを用いた発表の実践</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

資料を配布

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年告示）

学生に対する評価

小テストおよびレポート課題：40%

定期試験：60%

授業科目名： 化学概論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西田 淑男 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学校学習指導要領（理科・化学分野）の学習内容を指導するために必要な知識を身に付け、図解して説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中学校化学で扱う全学習内容を指導できるよう知識・技能を身に付ける。自然の事物・現象についての興味・関心を高めるとともに、科学の基本的な見方や概念である「粒子」を柱として構造化された中学校の学習内容を踏まえ、科学的な見方や考え方を養う。具体的には、組成からみた物質の分類、物質を構成する基本粒子、物質量、原子の構造、電子配置、周期律、イオン結合、共有結合、金属結合、分子間力について理解し、説明できる力を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：化学入門と状態変化。物質の三態及び物質の性質・変化の調べ方</p> <p>第2回：純物質と混合物</p> <p>第3回：物質量と気体の体積</p> <p>第4回：無機物質と有機化合物</p> <p>第5回：有機化合物と高分子化合物</p> <p>第6回：元素と原子 原子量と分子量</p> <p>第7回：原子と原子配置</p> <p>第8回：分子と化学結合</p> <p>第9回：周期表とイオン結合</p> <p>第10回：金属結合とイオン化傾向</p> <p>第11回：化学反応式</p> <p>第12回：酸と塩基</p> <p>第13回：中和反応</p> <p>第14回：酸化・還元</p> <p>第15回：電池と電気分解</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>教科書は指定しない。毎回プリントを配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

中学校「理科」教科書

学生に対する評価

成績評価は、定期試験（70%）と複数回の小レポート（30%）から評価する。

授業科目名： 化学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平野 義晃
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
授業のテーマ及び到達目標 中学校学習指導要領（理科・化学分野）の学習内容を指導するために必要な知識を身に付け、図解して説明できる。			
授業の概要 中学校化学で扱う全学習内容を指導できるよう知識・技能を身に付ける。自然の事物・現象についての興味・関心を高めるとともに、科学の基本的な見方や概念である「粒子」を柱として構造化された中学校の学習内容を踏まえ、科学的な見方や考え方を養う。具体的には、中学校で学習する物質の状態変化を、状態図から読みとる力を身に付ける。また、溶液の性質、気体の法則を化学熱力学の視点から理解し、説明できる力を身に付ける。			
授業計画 第1回：化学とは 第2回：原子核の構造 電子殻と軌道 第3回：電子の配置 元素の周期性 第4回：化学結合 イオン結合と金属結合 第5回：共有結合 弱い結合 第6回：元素の性質 第7回：気体・液体・固体 ・状態図 ・気体の状態方程式 第8回：溶液と溶解度 蒸気圧と沸点・酸と塩基, pH 第9回：反応の速度 遷移状態と活性化エネルギー・律速段階 第10回：熱力学第一法則 熱力学第二法則・反応の方向 第11回：酸化反応と還元反応 金属のイオン化 第12回：炭化水素の構造と性質 構造式 第13回：置換基 炭化水素の反応 第14回：高分子とは 高分子化合物の構造と性質 第15回：生命と化学 定期試験			
テキスト 教科書は指定しない。毎回プリントを配布する。			
参考書・参考資料等			

中学校「理科」教科書

学生に対する評価

成績評価は、定期試験（70%）と複数回の小レポート（30%）から評価する。

授業科目名： 化学特講	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 糸魚川 政孝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
授業のテーマ及び到達目標 有機化学一般の基礎的知識を身に付ける。これを基本にして、代表的な有機化合物グループの構造と主な性質を説明できる。			
授業の概要 生命体を構成する主な物質は水と有機化合物である。生態が示す様々な生命現象を理解する上で、有機化合物は重要な事項である。本授業では、有機化学の基礎的な知識と代表的な有機化合物について学び、生化学、生理学などの理解を深める為の知識を身に付ける。			
授業計画 第1回：生物をつくっている元素の特徴 第2回：有機化合物とその特徴と種類 第3回：脂肪族炭化水素と置換体、官能基 第4回：アルコール：アルデヒド 第5回：ケトン：エーテル 第6回：カルボン酸 スルホン酸 第7回：エステル、アミン、アミド 第8回：フェノール類、チオール 第9回：芳香族化合物 ベンゼンとその誘導体 第10回：有機化合物の構造、立体的な形 第11回：2種以上の官能基礎をもつ重要な有機化合物（単糖） 第12回：2種以上の官能基礎をもつ重要な有機化合物（アミノ酸） 第13回：天然高分子化合物 オリゴ糖・多糖類 第14回：天然高分子化合物 オリゴペプチド・タンパク質 第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト 授業毎のPowerPoint資料を配布する。			
参考書・参考資料等 随時紹介する。			
学生に対する評価 レポート（20%）、受講態度・意見発表（20%）、定期試験（60%）			

授業科目名： 化学実験 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 西田 淑男 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学実験（コンピュータ活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬品や実験器具の安全に配慮した取り扱いができる。 ・実験・観察によって得られた結果の整理，考察ができる。 ・科学的な見方や考え方を養うための観察，実験ができる。 ・コンピュータを用いた実験データの処理ができる。 ・化学実験の基本的な操作ならびに諸原理を習得し，簡単な実験計画の立案・実施をすることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>実験操作等の意味を十分に理解し，反応の進行状況を詳細に観察すると同時に十分な考察も加えることで，実験の基礎的操作法を修得する。</p> <p>中学校学習指導要領解説理科編に準じ，理科の教員になるために必要な安全に配慮した化学実験の基本操作法，指導法を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 1.安全に配慮した化学実験の指導，観察の指導について 2.実験レポートの書き方 3.理科室の経営（小・中学校）〔実験器具の整理・掲示物〕</p> <p>第2回：ガスバーナーの使い方，ガラス細工</p> <p>第3回：水溶液の濃度の調製の仕方と廃液処理</p> <p>第4回：赤ワインの蒸留</p> <p>第5回：金属で鏡をつくる</p> <p>第6回：未知の白色物質の識別</p> <p>第7回：プラスチックを用いた実験</p> <p>第8回：硝酸カリウムの溶解度曲線をつくる</p> <p>第9回：結晶の雪をふらせる 塩化アンモニウムの再結晶，飽和食塩水からの食塩の結晶の析出</p> <p>第10回：アボガドロ定数を求める 岩塩を利用したへき開実験</p> <p>第11回：燃焼のしくみ 水蒸気でマッチに点火，ろうそくの燃焼実験</p> <p>第12回：酸素・二酸化炭素の発生法と性質</p> <p>第13回：アンモニア・塩素の発生法と性質</p> <p>第14回：ミョウバンの結晶づくり</p> <p>第15回：コンピュータの利用（計測など）</p>			

定期試験
テキスト 教科書は指定しない。毎回プリントを配布する。
参考書・参考資料等 中学校「理科」教科書
学生に対する評価 成績評価は、定期試験（70%）と複数回の小レポート（30%）から評価する。

授業科目名： 化学実験Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 西田 淑男 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学実験（コンピュータ活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬品や実験器具の安全に配慮した取り扱いができる。 ・実験・観察によって得られた結果の整理，考察ができる。 ・科学的な見方や考え方を養うための観察，実験ができる。 ・コンピュータを用いた実験データの処理ができる。 ・化学実験の基本的な操作ならびに諸原理を習得し，簡単な実験計画の立案・実施をすることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>実験操作等の意味を十分に理解し，反応の進行状況を詳細に観察すると同時に十分な考察も加えることで，実験の基礎的操作法を修得する。</p> <p>中学校学習指導要領解説理科編に準じ，理科の教員になるために必要な安全に配慮した化学実験の基本操作法，指導法を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 1.安全に配慮した化学実験の指導 2.薬品の分類 3.実験器具の名称 第2回：元素の保存－炭素の酸化還元反応－ 炭素の旅・酸化銅（Ⅱ）の炭素による環元 第3回：定比例の法則の検証 1.銅の酸化 2.マグネシウムの酸化 第4回：液体・気体の体積変化 第5回：塩化ナトリウムの融解 第6回：酸化銀の分解，カルメ焼の生成 第7回：水の電気分解 1.水の電気分解 2.水素・酸素燃料電池 第8回：化学カイロ，クーラーパックをつくる 第9回：二酸化炭素の分子量の測定 第10回：過酸化水素水の分解速度の測定 第11回：電池1 レモン電池，ダニエル電池，備長炭電池 第12回：電池2 乾電池の分解 第13回：電池3 水素・酸素燃料電池の作成 第14回：pHと指示薬の色の変化 マイクロスケール実験法 第15回：食酢の中の酢酸の定量分析</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

教科書は指定しない。毎回プリントを配布する。

参考書・参考資料等

中学校「理科」教科書

学生に対する評価

成績評価は、定期試験（70%）と複数回の小レポート（30%）から評価する。

授業科目名： 生物学概論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井成 真由子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生物学の基本概念を学び、生物のもっている特性や殖え方を理解し、説明できるようになる。生体を構成する物質がどのように機能し、生命活動が維持されているのかを学び、説明できるようになる。生物の生命活動に必要なエネルギーが細胞の中でどのような機序で生成し利用されるのかを学び、説明できるようになる。また、多細胞生物における細胞間の相互の関係や情報伝達のしくみについて理解し、説明できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生物や生命現象に関する基本的な概念や原理・法則についての理解を深める。生物と生命現象を遺伝子、細胞小器官、細胞単体から細胞の集合体である個体レベルまで幅広く概説する。生体内で行われている生命活動（エネルギー代謝、光合成、情報伝達物質の働き、細胞分裂など）を科学的観点で捉え、説明できる能力を育成させると共に、教育指導者としての教養を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生物学とは_生物学の概要、生物学の基本_生物の多様性（動物・植物・細菌・ウイルス） 第2回：生物学の基本_ダーウィンの進化論 第3回：細胞のプロフィール_細胞の観察 第4回：細胞のプロフィール_動物・植物細胞における細胞小器官の働き 第5回：遺伝子の発現と制御_核酸の構造と働き 第6回：遺伝子の発現と制御_転写と翻訳の機序 第7回：第1回小テスト_第1回から第6回までの試験、試験結果にもとづく解説 第8回：ミトコンドリアの働き_ATPの合成 第9回：葉緑体の働き_光合成 第10回：代謝経路のネットワーク_酵素 第11回：タンパク質の機能_膜タンパク・受容体 第12回：細胞分裂 第13回：受精と発生 第14回：遺伝 第15回：第2回小テスト_第8回から第14回までの試験、試験結果にもとづく解説 定期試験</p>			

テキスト

基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第4版、和田勝・高田耕司他、羊土社、2020.10

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介・配布する。

学生に対する評価

提出物（10%）、小テスト（30%）、定期試験（60%）

授業科目名： 生物学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平野 義晃
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
授業のテーマ及び到達目標 生物学の基本概念を学び、生物のもっている特性を理解し、説明できるようになる。細胞分裂の仕組みや生体防御機構のシステムを学び、説明できるようになる。生命の老化・寿命と死について説明できるようになる。また、生物の多種多様性と進化、生態系の構造と動態など理解し、説明できるようになる。			
授業の概要 生物や生命現象に関する基本的な概念や原理・法則についての理解を深める。生物と生命現象を遺伝子、細胞小器官、細胞、生物の個体から生物の多種多様性まで幅広く概説する。生体内で行われている生命活動（細胞の増殖、生殖、生体防御機能、恒常性の維持、など）を科学的観点で捉え、説明できる能力を育成させ、教育指導者としての教養を身に着ける。			
授業計画 第1回：細胞の構造と働き 第2回：細胞間の情報交換 多細胞生物と情報伝達 第3回：細胞間の情報交換 ホルモンと受容体 第4回：細胞間の情報交換 細胞外からの転写の調節 第5回：生体防御機構 非特異的免疫と特異的免疫 第6回：生体防御機構 体液性免疫と細胞性免疫 第7回：生体防御機構 植物や無脊椎動物の生体防御機構 第8回：中間試験 第1回から第7回までの試験および試験結果にもとづく解説 第9回：生と死 細胞の再生と死 第10回：生と死 遺伝子と老化・寿命の関係 第11回：個体としてのまとめり 内部環境の恒常性維持 第12回：個体としてのまとめり 動物の行動 第13回：生物の進化と多様性 環境と適応 第14回：生物の進化と多様性 生物多様性の維持 第15回：生物の進化と多様性 生態系の構造と動態 定期試験			
テキスト 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第4版、 和田勝・高田耕司他、羊土社、2020.10			

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

受講態度（10%）、中間試験（30%）、定期試験（60%）

授業科目名： 生物学概論Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井成 真由子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物学の基本概念を学び、生物のもっている特性や殖え方を理解し、説明できるようになる ・生体を構成する物質がどのように機能し、生命活動が維持されているのかを学び、説明できるようになる 			
<p>授業の概要</p> <p>地球上には様々な生物種があり、生物は多様だが、その基本的成り立ちには統一性がある。本講義は生命体（細胞）を作り上げている基本的な部品（糖質・タンパク質・核酸）の構造やはたらきを理解することを目的とする。生体を構成する物質がどのように機能し、生命活動が維持されているのかを学び、生物の生命活動に必要なエネルギーが細胞の中でどのような機序で生成し利用されるのかを学ぶ。また、多細胞生物における細胞間の相互の関係や情報伝達のしくみについて理解し、生物や生命現象に関する基本的な概念や原理・法則についての理解を深める。</p> <p>授業では生物と生命現象を遺伝子、細胞小器官、細胞単体から細胞の集合体である個体レベルまで幅広く概説する。生体内で行われている生命活動（エネルギー代謝、光合成、情報伝達物質の働き、細胞分裂など）を科学的観点で捉え、説明できる能力と共に、教育指導者としての教養を身につけることを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生命を化学の言葉で統一的に理解する</p> <p>第2回：糖類がつくる化学結合と少糖類</p> <p>第3回：単糖が連なってできる多糖類の構造と機能</p> <p>第4回：アミノ酸の構造上の特徴とその特性</p> <p>第5回：アミノ酸がつくる化学結合とペプチド</p> <p>第6回：タンパク質の立体構造と機能</p> <p>第7回：核酸の基本構造と働き</p> <p>第8回：酵素の性質、酵素の反応速度、調整節機構</p> <p>第9回：糖と脂肪の分解によるエネルギー生産</p> <p>第10回：解糖系の反応の詳細について、解糖系の制御機構</p> <p>第11回：酸化的リン酸化によるATP合成の仕組み、細胞におけるエネルギー生産効率</p> <p>第12回：植物に特徴的な炭素代謝の概要、光合成からデンプンおよび糖代謝への流れ</p> <p>第13回：生体内で生じる酸化還元反応について、自由エネルギー変化と代謝</p>			

第14回：生命の秩序維持とエネルギー、細胞のエネルギー獲得、生物による有機化合物の合成と分解

第15回：生物の栄養様式、光合成と呼吸、炭素循環

定期試験

テキスト

基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第4版、和田勝・高田耕司他、羊土社、2020.10

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介・配布する。

学生に対する評価

提出物（10%）、小テスト（30%）、定期試験（60%）

授業科目名： 生物学特講	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 糸魚川 政孝
			担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>生命の神秘的なメカニズムと素晴らしさを細胞・分子レベルから理解するとともに、急速に進歩する生命科学技術（バイオテクノロジー）や医療技術の発展がもたらす複雑かつ高度化した諸問題を、正しく科学的に理解でき、「批判でき、自分の考え・意志を的確に表現できる」ことを到達目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>近年の科学技術の急速な進歩により、生命現象を分子レベルで語ることが出来るようになった。生命が35億年間伝え続けてきた「DNAという情報」をもとに「生命とは何か」「生きるようになっているか」をもとに癌やエイズ、さらには老化や痴呆などのメカニズムを分子レベルで見ることにより、「癌や老化をコントロールすることが出来るのか」を考え、健康について追求する。特に、癌をはじめとする生活習慣病を「薬食同源」にもとづき身近な食用や薬物食物で如何に予防できるかなど、この地球上で「健康で賢く生きる」とはどういうことかを考える。</p>			
授業計画			
第1回：生命とは何か（生きているとはどういうことか）			
第2回：連続する生命（化学進化と分子進化）			
第3回：人間の設計図を読む（遺伝子・DNAのしくみ）			
第4回：老化はコントロールできるのか			
第5回：生命を操作する1（バイオテクノロジー）			
第6回：生命を操作する2（遺伝子組み換え食品とは）			
第7回：生命を操作する3（クローン技術とは）			
第8回：21世紀の先端医療1（人体改造・ES細胞）			
第9回：21世紀の先端医療2（遺伝子治療・遺伝子診断とは）			
第10回：21世紀の先端医療3（生殖テクノロジーとは）			
第11回：21世紀の先端医療4（自分らしく生きるとは）			
第12回：人の心を科学の目で見るとは			
第13回：生命倫理（バイオエシックス）			
第14回：「健康で賢く生きる」とは			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			

教科書は特に指定しない。

参考書・参考資料等

参考図書等はテーマごとに別途紹介する。

学生に対する評価

レポート（20％）受講態度・意見発表（20％）、定期試験（60％）

授業科目名： 生物学実験 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 井成 真由子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学実験（コンピュータ活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 生物学実験の基礎的な方法や技術を修得し実践できる。身近で使用可能な素材や道具等を活用し実験を組み立てることができる。実験で得られたデータを解析し、実験の意義を説明することができるようになる。教育現場で行える生物学実験を計画し、教えることができるようになる。			
授業の概要 生物学・生命科学のさまざまな現象について、身近な素材を用いて調査・観察を行うことを通じ、自然に対する認識を深める。教育指導者として、応用可能な実験遂行能力や生物学に対する探求心を身につける。			
授業計画 第1回：顕微鏡の使用法 第2回：細胞・気孔の観察 第3回：植物細胞の観察 第4回：原形質流動と原形質分離の観察 第5回：細胞分裂の解析（コンピュータを使用して解析） 第6回：植物（花）の解剖と観察 第7回：脊椎動物（煮干し）の解剖と観察 第8回：脊椎動物組織の観察 第9回：無脊椎動物の解剖と観察 第10回：微生物の観察（コンピュータを使用して解析） 第11回：酵母の発酵による二酸化炭素の測定 第12回：TCA回路と酵素 第13回：細菌の採集と観察 第14回：組織からのDNA抽出 第15回：トウモロコシを用いた種子色の分離比の測定（コンピュータを使用して解析） 定期試験は実施しない。			
テキスト オリジナルのプリントを配布する。			
参考書・参考資料等			

基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第4版、和田勝・高田耕司他、羊土社、2020.10

学生に対する評価

受講態度 (20%)、レポート内容 (80%)

授業科目名： 生物学実験Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 平野 義晃
			担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学実験（コンピュータ活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 生物学実験の基礎的な方法や技術を修得し実践できる。実験を通して、生物の仕組みや行動について理解して説明することができる。実験結果を解析し、適正にまとめることができ、かつ実験の意義を説明することができるようになる。教育現場で行える生物学実験を計画し、教えることができるようになる。			
授業の概要 生物学実験を確実に進めるために必要な基礎的な実験技能を習得する。三大栄養素の消化過程、各種酵素活性、光受容体、動物の行動および初歩的な分子生物学実験等を通して、生体内で日常的に行われている生命活動や生物の行動について理解を深める。教育指導者として、実験遂行能力や生物学に対する探求心を身につける。			
授業計画 第1回：緩衝液の調製 第2回：緩衝液の緩衝能と水素イオン濃度の測定 第3回：アミラーゼによるデンプンの分解（コンピュータを使用した統計解析） 第4回：アミラーゼ活性のpH、補因子、温度による違い 第5回：ペプシンによるタンパク質の分解（コンピュータを使用した統計解析） 第6回：生体内に含まれるのタンパク質の分離 第7回：リパーゼによる油の分解の測定（コンピュータを使用した統計解析） 第8回：乳酸酸脱水素酵素の活性への補酵素による影響 第9回：カタラーゼ活性の測定 第10回：光受容体の働き（盲斑、近点の測定） 第11回：制限酵素によるDNAの切断 第12回：コオロギの解剖 第13回：動物の行動（コオロギの求愛行動） 第14回：動物の行動（コオロギの喧嘩行動） 第15回：動物の行動（コオロギのフェロモン行動） 定期試験は実施しない。			
テキスト オリジナルプリントを配布する。			

参考書・参考資料等

図解よくわかる生化学、中島邦夫他、南山堂、2004.12

学生に対する評価

受講態度（30%）、レポート内容（70%）

授業科目名： 地学概論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉山 範子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地球上で人類が持続可能な社会を実現するためには、地球のさまざまな自然現象に関する正しい理解と知識が必要である。本授業では、将来の地学（理科）教育に携わる上での、地球環境の諸現象の関連性について理解できる知識と思考力を養うことを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、気象学・気候学を中心に大気の大気現象、地球環境問題、自然環境と人間生活について学ぶ。本学「ともいき共通教育科目SDGs関連科目」を履修することが望ましい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：地学とはなにか？：授業の内容、進め方と評価方法について説明</p> <p>第2回：大気中に起る現象（大気と大気放射）</p> <p>第3回：大気中に起る現象（気圧）</p> <p>第4回：大気中に起る現象（風）</p> <p>第5回：大気中に起る現象（雲）</p> <p>第6回：大気中に起る現象（降水）</p> <p>第7回：天気の変化</p> <p>第8回：台風、落雷、竜巻</p> <p>第9回：大気の構造と気象現象、気圏の構造と組成</p> <p>第10回：大気の運動と世界の気象、気候現象、エネルギーの輸送</p> <p>第11回：海洋の構造と運動、水圏と海洋の構造</p> <p>第12回：大気汚染、土壌汚染、水質汚濁</p> <p>第13回：自然災害と都市災害</p> <p>第14回：自然環境と人間生活（地学の応用）、資源・環境問題</p> <p>第15回：持続可能な社会の実現のために社会・企業・人が出来ること、まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>教科書は指定しない。毎回プリントを配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校「理科」教科書、高等学校「地学基礎」「地学」教科書、一般気象学</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

成績評価は、定期試験（70%）と複数回の小レポート（30%）から評価する。

授業科目名： 地学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉山 範子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>近年、自然災害や自然環境問題などが多数発生している。人類が持続可能な生活を続けるためには、地球のさまざまな自然現象に関する正しい理解と知識が必要である。</p> <p>本授業では、将来地学教育に携わる上での、地球における自然現象に関わる各分野の基礎と、それら諸現象の関連性について理解することが出来る知識と洞察力、そのことを基にした行動が出来る素地を養うことを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「地学概論Ⅱ」では、地球の成り立ちと構造、地殻の変動と地史、地震・火山活動と災害について学ぶ。本学「ともいき共通教育科目SDG s 関連科目」を履修することが望ましい。</p> <p>第1回～14回の授業の終末にはリフレクションカード「発見・疑問・感想」を記入してその場で提出する。第2回～14回の授業の復習としてレポート課題「評価問題」を作成し、次回の授業の開始時に提出する。第15回の授業中に「SDG sに関する私の提言」と「浅井先生へのメッセージ」を作成して提出する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「地学概論Ⅱ」の授業の内容・進め方・評価方法</p> <p>第2回：宇宙の進化、銀河・銀河群・銀河団・超銀河団と宇宙の大規模構造、銀河系の構造</p> <p>第3回：太陽系の誕生、太陽系の構造、太陽系を構成する各天体の特徴、原始地球の進化</p> <p>第4回：地球の形と大きさ、地球の内部構造、大陸地殻と海洋地殻、リソスフェアとアセノスフェア</p> <p>第5回：プレートテクトニクス、プレートの動きとプレート境界、プレートテクトニクス</p> <p>第6回：地震のメカニズム、プレート境界地震・内陸地殻内地震・海洋プレート内地震、活断層</p> <p>第7回：マグマの発生(弧-海溝系・中央海嶺・ホットスポット)、火山地形と噴火様式、火山噴出物</p> <p>第8回：火成岩の形成と産状、火成岩の組織、火成岩の主な造岩鉱物、火成岩の分類</p> <p>第9回：風化と侵食・運搬・堆積、地表の変化と地形、続成作用と堆積岩、堆積岩の分類</p> <p>第10回：プレートの動きと地殻変動、変成作用と変成岩、変成岩の分類、岩石の循環</p> <p>第11回：地層の対比・古環境の推定と化石、地質時代と相対年代、放射性同位体の半減期と絶対年代</p> <p>第12回：地球環境と生物界の変遷（先カンブリア時代・古生代・中生代・新生代）</p> <p>第13回：地質調査と地質図、日本列島の地体構造、プレートの動きと付加体、日本列島の形成史</p> <p>第14回：地震災害、地震予測と防災・減災、火山災害、噴火予測と防災・減災</p> <p>第15回：持続可能な社会の実現のための社会・企業・個人の役割、「SDG sに関わる私の提言」</p>			

定期試験は実施しない。

テキスト

新課程版スクエア最新図説地学（第一学習社）

参考書・参考資料等

小学校「理科」教科書、中学校「理科」教科書、高等学校「地学基礎」「地学」教科書

学生に対する評価

- ① 14回分のリフレクションカード「発見・疑問・感想」（50%）
- ② 13回分のレポート課題「評価問題」、「SDG sに関わる私の提言」（50%）

授業科目名： 地学実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 杉山 範子
			担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学実験（コンピュータの活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 地球の諸現象を理解するための実験・実習として、気象予報及び気象観測を行う。専門天気図の読み方を学び、実際に気象観測を計画し、気象観測機器を用いてデータを取得、データを分析する一連の実習を通して、実践的な能力及びデータを基に思考する能力を養う。			
授業の概要 実際に気象観測をフィールド（野外）で2回実施する。気象観測機器を導入し、屋外でのデータの取得、データの取りまとめとコンピュータを用いた分析方法など、グループに分かれて実施する。			
授業計画 第1回：地学実験について、授業の内容、進め方と評価方法を説明 第2回：気象予報について（観測システム、数値予報） 第3回：専門天気図の見方（地上天気図、高層天気図） 第4回：気象観測と気象機器について 第5回：気象機器の使用方法 第6回：気象観測の計画（グループワーク） 第7回：気象観測の実施（フィールドワーク①最高気温出現時間） 第8回：気象観測データの取りまとめ①器差補正、時差補正 第9回：気象観測データの分析と考察①コンピュータを用いた解析 第10回：フィールドワーク①の結果報告（グループ別） 第11回：気象観測の実施（フィールドワーク②都市のヒートアイランド） 第12回：気象観測データの取りまとめ②器差補正、時差補正 第13回：気象観測データの分析と考察②コンピュータを用いた図の作成 第14回：フィールドワーク②の結果報告（グループ別） 第15回：地学教育とSDGs			
定期試験			
テキスト 教科書は指定しない。毎回プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 中学校「理科」教科書			

高等学校「地学基礎」「地学」教科書

学生に対する評価

定期試験（70%）と小レポート（30%）で評価する。

授業科目名： 理科指導法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山岡 武邦
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 「教科教育に対する専門的知見と技術を有している。」という目標を達成するために、理科を専門とする教員としての知見とその教授方法を身につける。			
授業の概要 理科教育に対する深い知識と教職に対する強い情熱を持ち、教育の専門家として確かな力量を備え、総合的な人間力を持って生徒に援助ができる実践的指導力を兼ね備えた教員の養成を目的とする。			
授業計画 第1回： 理科指導法 I の概要、本講義の計画、概要、達成目標 第2回： 理科教育における自然科学 第3回： 理科教育の目的・目標とその学習内容 第4回： 学校学習指導要領総則・理科 第5回： 理科カリキュラムの歴史と背景 第6回： 物理教育の目標と意義－自然を考えるための基礎としての物理 第7回： 化学教育の目標と意義－物質の概念を導入するための化学 第8回： 生物教育の目標と意義－自然における経験と知識からの生物 第9回： 地学教育の目標と意義－自然の変化から考える地学 第10回： 理科の授業の構成－カリキュラム、授業のタイプとその前提 第11回： 理科の授業の構成－デジタル教材、アナログ教材とその活用 第12回： 理科の授業の構成－学習授業計画と学習評価 第13回： 理科の実験とICTとの関係 第14回： 理科における観察、実験、ICT機器活用の実践(1) [物理教育及び化学教育を事例として] 第15回： 理科における観察、実験、ICT機器活用の実践(2) [生物教育及び地学教育を事例として] 定期試験 テキスト 資料を配布 参考書・参考資料等			

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年告示）

学生に対する評価

定期試験50% レポート50%

授業科目名： 理科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山岡 武邦 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 「教科教育に対する専門的知見と技術を有している。」という目標を達成するために、理科を専門とする教員としての知見とその教授方法を身につける。			
授業の概要 理科の授業展開についての具体的な進め方、授業を進める上での課題を踏まえ、教材開発を行い、その効果について議論、分析および批評をする。また、生徒の自然現象に対する概念形成と学習意欲を高めつつ、生徒に観察・実験を行わせるために必要とされる指導技術を習得する。一方で、安全教育、環境教育、STS 教育、STEAM教育と理科との関係について実践的に学ぶ。			
授業計画 第1回：理科指導法Ⅱの概要、本講義の計画、概要、達成目標 第2回：実験における試薬の取り扱い、薬品とICT機器との係わりについて 第3回：実験器具類、ICT機器の取り扱いについて 第4回：実験における安全対策(1)[器具]、火気の扱い方とICT機器との係わり 第5回：実験における安全対策(2)[装置] 第6回：実験室の管理と運営、ICT機器の運用と管理 第7回：STS 教育のあり方と実践 第8回：STEAM 教育のあり方と実践 第9回：理科における環境教育の役割 第10回：理科における環境教育の実践 第11回：理科教育とものづくり－先行研究の調査 第12回：理科教育とものづくり－教材の作製(1)[実験計画] 第13回：理科教育とものづくり－教材の作製(2)[教材開発] 第14回：理科教育とものづくり－教材の作製(3)[模擬授業及び授業評価] 第15回：総括 定期試験			
テキスト 資料を配布			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年告示）			

学生に対する評価

定期試験50% レポート50%

授業科目名： 理科指導法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉澤 学 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校理科教育の目標や内容、学習指導や評価、授業研究の方法等について理解できる。 ・ 中学校理科において、生徒の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた場面指導ができる。 ・ 中学校理科の場面指導演習を行い、学習指導に必要な知識・技能を知り、習得をめざす。 ・ 中学生の目線で探究活動「チョークの科学」や自由研究（観察、実験、野外観察、博物館・科学館・動植物園・水族館・ジオパークの取材など）を実施し、探究の過程を生徒に身に着けさせる方途を研究する。 			
<p>授業の概要</p> <p>探究活動「チョークの科学」を通して探究の過程を実体験したり、自由研究（4点）を実施して探究の進め方に精通したりする。また、小学校・中学校の「学習指導要領解説理科編」を読解して、理科教育の全体像に迫る。さらに、班活動として授業づくりや評価に関する「場面指導演習」を取り入れることにより、受講生の「授業を考え・工夫し・表現する」能力を高める。</p> <p>（自由研究のレポート4点から個人内の最優秀作品を1点選ぶ。全員分の最優秀作品をまとめたものを一人一人にメール配信して、「自由研究作品集」として共有の財産とする。）</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：理科指導法Ⅲの概要、活動班編成、理科教育の目的（グループ討議）、自由研究の選定 第2回：探究の過程①：課題の把握（「チョークの科学」を通して）、ICTを活用した計画書づくり 第3回：探究の過程②：課題の探究（「チョークの科学」を通して）、必要な情報の検索 第4回：探究の過程③：課題の解決（「チョークの科学」を通して）、ICTを活用した結論の伝達 第5回：理科教育課程の全体構造（小学校理科・中学校理科の教科書分析を通して） 第6回：理科の目標、資質・能力、見方・考え方（小学校理科から中学校理科につなぐ） 第7回：場面指導演習①：ICT機器・教材教具の効果的な活用 第8回：場面指導演習②：ICTを活用した定量的・数的理解と処理（グラフや誤差を中心に） 第9回：場面指導演習③：ICTを活用した定量的・数的理解と処理（公式や単位を中心に） 第10回：場面指導演習④：授業のまとめとしての科学的説明（最新情報の収集とモデル図を中心に） 第11回：診断的評価と生徒理解、形成的評価と授業デザイン、総括的評価と概念変容 第12回：目標・指導・評価の一体化、観点別評価基準と学習指導要録・通知表 第13回：場面指導演習⑤：指導・評価の計画、多様かつ多段階な評価手法（授業案に即して）</p>			

第14回：自由研究の発表会、自由研究のレポート（4領域から各1点計4点）をメール提出
第15回：理科授業研究の歴史とこれから、理科指導法Ⅲの「評価問題」作成提出
定期試験は実施しない。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編』

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編』

参考書・参考資料等

小学校「理科」教科書、中学校「理科」教科書

学生に対する評価

- ① 毎回のリフレクションカード「発見・疑問・感想」（50%）
- ② 4点の「自由研究のレポート」、理科教育Ⅲの「評価問題」（50%）

授業科目名： 理科指導法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉澤 学 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元について（単元の意義・系統的に見た位置・単元と生徒の関係）、目標と評価基準、指導計画と評価計画について述べることができる。 ・ 本時の指導を行うための教材研究（予備実験、ICT機器の活用、目標と評価など）を基に、学習形態を明確にした指導過程、板書案・ワークシート・資料などを提示できる。 ・ 理科学習指導案の作成と班内協議による修正ができる。 ・ 班内での模擬授業の実施と授業改善に向けた協議ができる。 ・ 授業改善の全体発表会の内容を基にして、学習指導案の修正を行い提出することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>理科学習指導案をWebや図書館を利用して収集して、教材研究を基にした学習指導案の作成方法や指導案の形式について理解する。そして、4領域から1つずつの単元を選定して学習指導案を作成し、班内協議により修正する。修正した学習指導案を基に班内模擬授業を実施し、授業評価を行う。授業評価を踏まえた授業改善の発表会（全体）を行い、学習指導案を再度修正してメールにて提出する。（全員分の学習指導案をまとめたものを一人一人にメール配信して、4領域別の「学習指導案例集」として共有の財産とする。）</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：理科指導法Ⅳの概要、活動班編成、指導計画（年間・単元）、担当単元の選定 第2回：本時案（学習形態・授業展開）、予備実験、教材教具、ICT機器、担当本時の選定 第3回：学習指導案の作成方法：単元について、目標と評価、指導計画、本時の指導、観察・実験におけるICT活用 第4回：物理的領域の学習指導案①：班内協議（単元と本時）、ICTの利用方法、指導案修正、代表者選定、授業準備 第5回：物理的領域の班内模擬授業：班内代表者による模擬授業（他の班員は生徒役）、授業評価 第6回：物理的領域の学習指導案②：授業改善の発表会（授業評価を踏まえて）、指導案修正・提出 第7回：化学的領域の学習指導案①：班内協議（単元と本時）、ICTの利用方法、指導案修正、代表者選定、授業準備 第8回：化学的領域の班内模擬授業：班内代表者による模擬授業（他の班員は生徒役）、授業評価 第9回：化学的領域の学習指導案②：授業改善の発表会（授業評価を踏まえて）、指導案修正・提出 第10回：生物的領域の学習指導案①：班内協議（単元と本時）、ICTの利用方法、指導案修正、代表</p>			

者選定、授業準備

第11回：生物学的領域の班内模擬授業：班内代表者による模擬授業（他の班員は生徒役）、授業評価

第12回：生物学的領域の学習指導案②：授業改善の発表会（授業評価を踏まえて）、指導案修正・提出

第13回：地学的領域の学習指導案①：班内協議（単元と本時）、ICTの利用方法、指導案修正、代表者選定、授業準備

第14回：地学的領域の班内模擬授業：班内代表者による模擬授業（他の班員は生徒役）、授業評価

第15回：地学的領域の学習指導案②：授業改善の発表会（授業評価を踏まえて）、指導案修正・提出
定期試験は実施しない。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編』

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編』

参考書・参考資料等

小学校「理科」教科書、中学校「理科」教科書

学生に対する評価

① 毎回のリフレクションカード「発見・疑問・感想」（50%）

② 4点の「学習指導案」（50%）

授業科目名： 自然環境と共生	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉山 範子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 人間の活動にともなうさまざまな環境問題（グローバルな問題およびローカルな問題）について理解し、説明することができる。 環境問題、SDGs、「ともいき」などに関し、自分の考えを述べることができる。 			
授業の概要			
<p>人類（生物）は地球環境の中で生まれ進化してきた。特に人類は、その地球環境に手を加え、より快適な環境となるように働きかけてきた。この講義では、環境を地球環境としてグローバルに捉えるとともに、身の回りの生活環境としてローカルにも捉え、その両方の捉え方に対し、環境の現状と問題点をさまざまな事例やデータから学ぶ。そして、私たち（更には、人類）は今後、環境に対しどのように接し、働きかけるべきかを考察する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：本講義の概略説明：本講義のあらましについて説明し、自然や環境と私たちとの関りについて学ぶ。講義全体を通じて「持続可能性」について理解を深めていくことを説明する。</p> <p>第2回：地球環境問題とは何か：私たちの住む地球について、グローバルに捉え環境問題を学ぶ。</p> <p>第3回：水資源の減少・枯渇：「水の惑星」と言われる地球が抱える水資源を巡る環境問題について、「バーチャル・ウォーター」を事例に学ぶ。</p> <p>第4回：地球温暖化と気候変動（1）：地球温暖化に関する科学的なデータ及び異常気象や自然災害の状況から気候危機の現状を理解する。人為的な気候変動について説明することができる。</p> <p>第5回：地球温暖化と気候変動（2）：地球温暖化に対処するための国際・国・地域の政策について学び、具体的な「緩和策」について理解する。</p> <p>第6回：地球温暖化と気候変動（3）：気候変動に対処する具体的な「適応策」について理解する。気候変動の影響には地域性があることを理解し、地域の具体的な取組みについて考える。</p> <p>第7回：エネルギー：私たちの社会や暮らしに欠かせないエネルギーについて、エネルギー資源（化石燃料、再生可能エネルギーなど）に関する環境問題、エネルギー政策などを学ぶ。</p> <p>第8回：森林破壊・熱帯雨林の減少：世界の森林は減少・劣化が問題になっている。森林減少がもたらす影響、その原因と対策について学ぶ。</p> <p>第9回：生物多様性の減少：生物多様性がもたらす恵みとその危機について学び理解する。さらに、生物多様性を守るための世界の取組みから、日本、地域の取組みを学ぶ。</p> <p>第10回：プラスチックによる海洋汚染：プラスチックがもたらす環境問題について学ぶ。脱プラスチック</p>			

ックのためにはどのような取組み、しくみが必要か具体例をもとに考える。

第11回：有害化学物質による汚染：化学物質が環境中に排出され人の健康や生態系に影響を及ぼした事例を学ぶ。さらに、化学物質を適正に利用するための世界の取組み、日本の取組みを学ぶ。

第12回：なごやの環境（1）：空気・水・土など地域の環境問題について学び、考える。

第13回：なごやの環境（2）：廃棄物（ごみ）の問題を採りあげる。循環型社会とはどのような社会か、その実現に向けてどのような取組みが必要か考える。

第14回：なごやの環境（3）：まちづくりについて考える。脱炭素社会とはどのような社会か、それを実現するためには、どのような取組みが必要か、すでにある技術やしくみ、海外の事例を学ぶ。

第15回：まとめ：講義で学んだ地球環境問題について振り返り、「持続可能な開発」とは何か、改めて考え全員で議論する。2030年に向けた自らの取組みについて考える。

定期試験

テキスト

「なごや環境ハンドブック」なごや環境大学

参考書・参考資料等

「環境白書/循環型社会白書/生物多様性白書」令和3年版 環境省 日経印刷

「環境社会検定試験（eco検定）公式テキスト」東京商工会議所 日本能率協会マネジメントセンター 2021年、第8版

学生に対する評価

定期試験80%、レポート課題20%。

授業科目名： 生命の科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 糸魚川 政孝
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生命を理解するための科学的知識を修得し，細胞の活動に対する理解を深め，地球環境や他生物との関わりの中でヒトの位置づけを説明できる。 ・ 地球が誕生してからこれまでの生命の歴史と進化について概略を説明できる。 ・ 細胞を構成する細胞小器官の働きと特徴を説明できる。 ・ 植物と動物の関係理解し，光合成と呼吸の関係を説明する事ができる。 ・ 遺伝子DNAの営みを理解し，複製，翻訳，生殖について説明できる。 ・ 人間の5感の仕組みを理解し，それらの特徴を指摘できる。 ・ 環境と生物活動の関係を理解し，ヒトの生活への影響について説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>生物は地球上の空・陸・海で互いに影響を及ぼしながら多様な進化を遂げてきた。私たちヒトも地球の生物の一員であり，他の生物と深く関わりながら生きている。ヒトが持続的に発展していくためには，私たち自身が生命現象の仕組みや生物相互関係について，基礎的知識を身につける必要がある。生物学を学ぶことは，ヒトについて自ら知ることである。本講義では，地球に生命が出現してから，生物がいかに多様化し，進化してきたのか，また生命が維持され，次世代をつなぐ仕組みについて，基礎的知識を教授する。生命の複雑さ，巧妙さ，そして，大切さを自覚することにも重点を置く。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生命の起源：生物の基本特性，生物の自然発生説，生物の起源と化学進化 第2回：地質年代の生物相と変遷：地球の生物の変遷，地質年代の区分と大量絶滅，環境変化と生物 第3回：生物の進化：生物の進化と道筋，生物進化の証拠，霊長類とヒトの進化 第4回：生物の系統と種の分類：生物の系統樹，生物の分類，五界説と3超界説，生物の分類と利点 第5回：生命の単位—細胞：細胞説，原核・真核生物，単細胞・多細胞の違い，細胞の特殊性と役割 第6回：細胞の構造と機能：細胞の構造と成り立ち，細胞小器官の役割，細胞内共生説 第7回：細胞膜と物質輸送：細胞膜の構造，受動輸送と能動輸送，浸透圧と水の出入り 第8回：生命活動の担い手酵素：タンパク質の性質，高次構造，酵素の働きと種類 第9回：呼吸とエネルギー代謝：光合成と呼吸，同化と異化，代謝と生合成，エネルギー生産 第10回：光合成のしくみと役割：葉緑体の働き，明反応・暗反応，炭素と酸素の全地球的循環，水の循環</p>			

第11回：遺伝子の本体DNA：DNAの二重らせん構造，DNA複製と塩基配列，遺伝情報の保存

第12回：遺伝情報の発現：遺伝情報の転写と翻訳，リボソームとタンパク質合成，遺伝子の突然変異の疾患

第13回：生殖方法の多様性：無性生殖と有性生殖，減数分裂と配偶子形成と受精，環境と生物生存の関係

第14回：生物の環境応答：動物の感覚器と神経伝達，5感の仕組みと情報処理，脳の重要な働き

第15回：生態と環境：気候とバイオームの種類の関係，垂直分布と水平分布

定期試験

テキスト

「サイエンスビュー 生物総合資料」長野 敬，牛木辰男，ほか 実教出版

「ZEROからの生命科学」木下 勉，小林秀明，浅賀宏昭 南山堂

参考書・参考資料等

指定しない。

学生に対する評価

定期試験（50%）および予習復習と受講態度（50%）として総合的に評価し，全体で60%以上の得点を獲得した者に単位を認定する。

授業科目名： 生活と化学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井成 真由子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の中で起きる現象が、化学反応を基にしている事が理解できるようになる。 ・ 生活の中で重要な要素である調理が、種々の化学反応（溶解・加熱・酸化・還元など）を基にしている事が理解できるようになる。 ・ 三大栄養素であるタンパク質・炭水化物・脂質を有機化合物の視点から捉え、消化・吸収を化学反応として理解できるようになる。 ・ 食品の表示あるいは洗剤などの表示を見て、どのような化学的性状を持つものであるかが推測できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>化学は基礎的な学問であると同時に、私たちの生活のなかで必要不可欠なものすべてに関係する身近な学問でもある。今講義は、高校の化学を基礎として、大学生に必要な教養レベルの化学を効率よく修得する最も近道な方法として、日常生活に着目し、どのようにたくさんの”化学物質”に囲まれあるいはそれらを利用しているか理解しながら生活の場を入り口として、無機化学、有機化学の基礎について理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：物質の成り立ち (1) 原子、電子について</p> <p>第2回：物質の成り立ち (2) 原子の安定性について</p> <p>第3回：物質の成り立ち (3) 水分子の会合について</p> <p>第4回：物質の変化 (1) 量について</p> <p>第5回：物質の変化 (2) 中和反応と酸化還元反応について</p> <p>第6回：物質の変化 (3) 発熱・吸熱反応、反応速度について</p> <p>第7回：物質の状態と性質 (1) 水の三態と溶解について</p> <p>第8回：物質の状態と性質 (2) 電解質、コロイド溶液について</p> <p>第9回：有機化合物 (1) 炭化水素について</p> <p>第10回：有機化合物 (2) アルコール、エステルについて</p> <p>第11回：有機化合物 (3) アミン、異性について</p> <p>第12回：生体物質 (1) 糖質について</p> <p>第13回：生体物質 (2) 脂質について</p> <p>第14回：生体物質 (3) タンパク質について</p>			

第15回：生体物質(4) 酵素、旨味成分、ビタミン、ミネラルについて

定期試験

テキスト

「食を中心とした化学」北原重登他、東京化学社

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験(70%)、小テスト(20%)、提出物(10%)で評価する。

授業科目名： 憲法と基本権	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田口 大介 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的人権についての基礎的な知識を体系的に身につけている。 ・ 社会と人間とのかかわりを、法を通して理解することができる。 ・ 教職を志す者は、教育と憲法のかかわり理解し、教育課題に対して法的な視点から意見を述べることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法は1946年公布・1947年施行され、戦後日本における民主主義的な社会の発展を基礎づけてきた。その間、平和主義を規定した第9条の解釈をはじめとして、憲法そのものの評価をめぐるさまざまな議論がなされ、昨今は憲法改正も取りざたされている。こうした憲法のあり方について最終的な決定権を持つわれわれは、憲法の理念を正しく理解しておく必要がある。憲法は、憲法総論、基本的人権、統治機構の3つの学習分野に大別できるが、最も重要なのは基本的人権の分野であり、基本的人権についての学習が憲法学習の中心となる。そこで、授業では、基本的人権の保障とその内容を中心に解説をし、基本的人権についての理解を深めることを目的とする。なお、憲法総論、統治機構の分野についても必要な限り説明をする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス：どうして憲法を学ぶのか</p> <p>第2回：憲法総論① 日本国憲法の成立過程</p> <p>第3回：基本的人権① 個人の尊厳</p> <p>第4回：基本的人権② 教育と人権～子どもの権利、教師の権利～</p> <p>第5回：基本的人権③ 平等と差別</p> <p>第6回：基本的人権④ 思想・良心の自由、信教の自由</p> <p>第7回：基本的人権⑤ 表現の自由</p> <p>第8回：基本的人権⑥ 学問の自由</p> <p>第9回：基本的人権⑦ 教育を受ける権利</p> <p>第10回：基本的人権⑧ 経済的自由権と社会権</p> <p>第11回：基本的人権⑨ 参政権</p> <p>第12回：憲法総論② 平和主義</p> <p>第13回：統治機構① 立法・行政・司法</p> <p>第14回：統治機構② 地方自治・主権国家</p>			

第15回：講義全体のまとめ

定期試験

テキスト

教職課程のための憲法入門〔第2版〕 西原博史・斎藤一久編著 弘文堂

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

授業への参加度合い（20%）、毎回の授業記録（小レポート等）（20%）、定期試験（60%）により総合的に評価する。

授業科目名： 健康と運動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大金 邦成 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康に関する基礎的知識を身につけ、諸問題に対応できる知識を説明できる。 2. スポーツ医学の基礎的知識を身につけ、健康管理の指導ができる。 3. スポーツ栄養学の基礎的知識を身につけ、栄養管理の指導ができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>超高齢化社会を迎えて、健康に長生きすることは個人にとっても社会にとってもますます重要になってくる。そして、そのためには運動が極めて大切であることが多くの科学研究によって実証されている。</p> <p>本講義では運動と健康との関係について理解を深めるために、各ライフステージにおける運動の意義や生活習慣病予防のために必要な運動を中心に概説する。受講生諸君が近い将来、社会に出て活躍するためにはまず、自らの健康管理能力を身につける必要がある。そのためにはどのような運動をすべきか、また、適正な身体組成を保つためには何をすべきかといった、実践能力を身につけてもらうことを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、健康とは</p> <p>第2回：体力とは</p> <p>第3回：運動機能の特徴およびトレーニング</p> <p>第4回：スポーツとからだ①</p> <p>第5回：スポーツとからだ②</p> <p>第6回：スポーツ選手の健康管理</p> <p>第7回：特殊環境下でのスポーツ障害とその予防</p> <p>第8回：コンディショニング、遠征でのスポーツ医学</p> <p>第9回：スポーツと嗜好品・サプリメント・薬物、救急処置</p> <p>第10回：課題レポート作成</p> <p>第11回：健康と栄養、食品・栄養と運動</p> <p>第12回：栄養所要量、身体組成・肥満とウエイトコントロール</p> <p>第13回：スポーツのための食事学①</p> <p>第14回：スポーツのための食事学②</p> <p>第15回：本講義のまとめ</p>			

定期試験

テキスト

使用しない。適宜プリントを配付する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験（50％）、課題レポート（50％）、発言や提案などの授業への参加態度を総合的に評価する。

授業科目名： スポーツA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 安 栽漢、金謙 蓉、 樋口 憲生、佐分 慎弥 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ストローク、サーブ、ボレーなど、テニスの基礎的な技術が上達する。 2. ダブルスとシングルのルールを理解し、お互いに審判をしながら円滑にゲームする。 3. マナーを知り、実践する。 4. グループ・ワークでコミュニケーションをとり協同する。 			
授業の概要			
<p>高度に機械化・情報化の進んだ現代社会では、健康を維持・増進するためには、定期的な身体運動の継続が肝要です。本講義では、テニスの学習を通じて生涯にわたり健康を維持・増進できるよう、楽しみながら実践する能力を養うことを目的とします。また、技術の向上はもちろんのこと、グループワークを通して仲間との交流を図り、協調性やフェアプレー、スポーツマンシップを身に付けることも目的とします。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス。自由にテニスをしてみる			
第2回：フォアハンドとバックハンドのストローク練習。ダブルスのミニゲーム			
第3回：マナーを身に付ける。ハーフコートでラリーの練習。ダブルスのミニゲーム			
第4回：サーブの練習。ダブルスのルール確認のためのゲーム			
第5回：ボレーの練習。ダブルスのゲーム			
第6回：いろいろなフォーメーションの練習。ダブルスのゲーム			
第7回：グループ毎に基礎技術の練習内容を決めて実践する。ダブルスのゲーム			
第8回：リーグ戦（ダブルス）①			
第9回：リーグ戦（ダブルス）②			
第10回：リーグ戦（ダブルス）③			
第11回：グループ再編。ダブルスのゲーム			
第12回：シングルのルール確認のためのゲーム			
第13回：グループ内でダブルスとシングルのゲーム			
第14回：基礎技術の総合練習。グループ毎にゲームの種類を決める			
第15回：グループ毎に授業計画（練習とゲームの内容）を決めて実践する。まとめ 定期試験は実施しない。			

テキスト

使用しない。適宜プリントを配付する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

受講姿勢（80%）、レポート（20%）により評価する。

授業科目名： スポーツB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 岡村 誠 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バasketボールの基本技能を習得し、ゲームができる。 2. 瞬発力、持久力、調整力などの体力アップが実感できる。 3. 技能だけでなくマナーも学び、Basketボールの学習を通じスポーツマンシップを表現できる。 4. 試合を通して仲間意識を育て、共感できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>Basketボールは、ほとんどの小学校や中学校で取り入れられている生涯スポーツの1つである。また、国内国外を問わず多くの大会が開催されている競技スポーツの1つでもある。この授業では、Basketボールをレクリエーションスポーツ・競技スポーツの両面からとらえ、実践を通して競技に必要な知識や実技を学ぶ。試合ゲームを基本とし、その中から問題点や改善点を修正していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：ドリブル、ゲーム</p> <p>第3回：既習技能の復習、ドリブル、ゲーム</p> <p>第4回：既習技能の復習、各種パス、ゲーム</p> <p>第5回：既習技能の復習、各種パス、ゲーム</p> <p>第6回：既習技能の復習、各種シュート、ゲーム</p> <p>第7回：既習技能の復習、各種シュート、ゲーム</p> <p>第8回：既習技能の復習、オフェンスの基礎練習、ゲーム</p> <p>第9回：既習技能の復習、オフェンスの基礎練習、ゲーム</p> <p>第10回：既習技能の復習、ディフェンスの基礎練習、ゲーム</p> <p>第11回：既習技能の復習、ディフェンスの基礎練習、ゲーム</p> <p>第12回：既習技能の復習、ディフェンスの応用練習、ゲーム</p> <p>第13回：既習技能の復習、攻守のコンビネーション、ゲーム</p> <p>第14回：既習技能の復習、攻守のコンビネーション、ゲーム</p> <p>第15回：ゲーム、本授業のまとめと評価</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			

テキスト

使用しない。適宜プリントを配付する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

実技能力（40％）、授業態度（60％）で総合的に評価する。

授業科目名： スポーツC	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 横井 純子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. エアロビクスの特性と効果の知識を深めることができる。 2. 音楽に合わせてからだを動かす楽しみと表現する楽しみを体得できる。 3. 対象者に応じたプログラムの作成と運動指導ができる。 			
授業の概要			
<p>エアロビクスは、音楽に合わせて楽しくからだを動かすことができる運動であり、生活習慣病の予防など健康維持および増進が期待される運動である。また、小学校および中学校の体育教育において、体づくり運動領域の「動きを持続する能力を高める運動」に例示されている。本講義では、大学生という立場で、音楽に合わせてのからだを動く巧みさや運動技術の向上を図っていく。また、現代社会から運動の必要性を認識し、健康に関する知識や理解を深めていくことを目的とする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス（授業全体の説明、諸注意）、エアロビクス体験</p> <p>第2回：エアロビクス体験（入門クラス体験）、基本構成</p> <p>第3回：特徴と効果について知る</p> <p>第4回：W-UPについて（運動の目的、エアロビクスの構成、正しいアライメント、水分補給）</p> <p>第5回：メインパートについて（対象者に応じたプログラム、運動強度）</p> <p>第6回：メインパートについて（運動強度を変化させる要因、安全、HR測定）</p> <p>第7回：メインパートについて（運動の条件、指導者の役割）</p> <p>第8回：メインパートについて（基本ステップ）</p> <p>第9回：ローインパクトステップの作成（基本ステップの作成）</p> <p>第10回：ローインパクトステップの作成（動きの展開）（グループワーク）</p> <p>第11回：ローインパクトステップの作成（運動指導の方法）（グループワーク）</p> <p>第12回：運動指導の実践（グループワーク）</p> <p>第13回：エアロビックダンス作成（音楽使用のメリットと活用）（グループワーク）</p> <p>第14回：エアロビックダンス作成（健康・体力づくり）（グループワーク）</p> <p>第15回：エアロビックダンス発表（グループワーク）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			

使用しない。適宜プリントを配付する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

基本動作を基に作成した運動指導 25%、グループ実習発表 25%、プログラム作成とノート提出 15%、受講態度 35%を到達目標の達成度に基づき総合評価する。

授業科目名： 総合英語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 蟹江 弘子、武田 尚子、 中野 奈央 担当形態：単独、クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 英語で書かれた簡単な物語や身近なことに関する文章を理解できる。 リスニングとリーディングの上達のために特に意識すべき点を理解できる。			
授業の概要 英語で書かれた身近なことに関する文章を材料として簡単な200語程度のパラグラフの意味を把握し、語彙を増やし更に高度な内容が理解できるようになることを目的とする。使われている表現をペアで読み合う、ならびに文章に対する自分の意見をペアで言い合うという活動をしながらか、コミュニケーションに必要な英語力を身につける。			
授業計画 第1回：Introduction/ Unit 1 Cross-Cultural Understanding 第2回：Unit 1 Cross-Cultural Understanding 強く発音される語を聞き取る／文の主語を見つける 第3回：Unit 2 Foods 語順のまま理解する／文の動詞を見つける 第4回：Unit 3 Foreign Language Learning 消える t と d を聞き取る／動詞の目的語を見つける 第5回：Unit 4 Sports 似た音に注意して聞き取る／補語を見つける 第6回：Unit 5 Fashion n でつながる語句を聞き取る／何のかわりかを見抜く（代名詞） 第7回：Unit 6 Living Things 弱い can を聞き取る／「to+動詞」を理解する 第8回：Review from Unit 1 to Unit 6 第9回：Unit 7 Art 話の展開を予測する／「動詞+ing」を理解する 第10回：Unit 8 Global Issues 強弱のリズムに慣れる／主語が「されること」を理解する（受動態） 第11回：Unit 9 Japanese Culture t でつながる語句を聞き取る／比較を理解する（同等 比較・比較級・最上級）			

第12回: Unit 10 Human Rights

1 でつながる語句を聞き取る／後ろからの説明を見抜く（後置修飾）

第13回: Unit 11 Health & Medical Issues

弱い of を聞き取る／名詞を限定していることを見抜く（関係代名詞）

第14回: Unit 12 Environmental Issues

対比による強調を理解する／and がつなぐものを見抜く（並列）

第15回: Review

定期試験

テキスト

『AMBITIONS: Elementary』VELC研究会教材開発グループ 金星堂

参考書・参考資料等

『ジーニアス英和辞典』大修館書店 等各種辞書類

学生に対する評価

定期試験（60％）、授業への参加度（20％）、小テスト（20％）の割合で評価する。

授業科目名： 総合英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 蟹江 弘子、武田 尚子、 中野 奈央 担当形態：単独、クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 英語で書かれた簡単な物語や身近なことに関する文章を理解できる。 リスニングとリーディングの上達のために特に意識すべき点を理解できる。			
授業の概要 英語で書かれた身近なことに関する文章を材料として簡単な200語程度のパラグラフの意味を把握し、語彙を増やし更に高度な内容が理解できるようになることを目的とする。 使われている表現をペアで読み合う、ならびに文章に対する自分の意見をペアで言い合うという活動をしながら、コミュニケーションに必要な英語力を身につける。			
授業計画 第1回：Introduction/ Unit 1 Cross-Cultural Understanding 第2回：Unit 1 Cross-Cultural Understanding 強く発音される語を聞き取る／仮の主語を見抜く（It～that 構文） 第3回：Unit 2 Foods 語順のまま理解する／後ろからの説明を見抜く（後置修飾） 第4回：Unit 3 Foreign Language Learning 消える t と d を聞き取る／実現の可能性を見抜く（仮定法） 第5回：Unit 4 Sports 弱い can を聞き取る／and がつなぐものを見抜く（並列） 第6回：Unit 5 Fashion 弱い that を聞き取る／but や or がつなぐものを見抜く（並列） 第7回：Unit 6 Living Things n でつながる語句を聞き取る／文脈に合った意味を選ぶ（多義語） 第8回：Review from Unit 1 to Unit 6 第9回：Unit 7 Art 弱い of を聞き取る／知らない単語の意味を推測する 第10回：Unit 8 Global Issues 対比による強調を理解する／知らない単語の意味を推測する 第11回：Unit 9 Japanese Culture			

話の展開を予測する／代名詞が受けているものを見つける

第12回: Unit 10 Rights

のみこまれる dn を聞き取る／同じことを指している語句を見つける

第13回: Unit 11 Health & Medical Issues

似た音に注意して聞き取る／文章展開の手がかりを見つける (談話標識)

第14回: Unit 12 Environmental Issues

強弱のリズムに慣れる／時間軸にそった文章展開を見抜く

第15回: Review

定期試験

テキスト

『AMBITIONS: Pre-intermediate』VELC研究会教材開発グループ 金星堂

参考書・参考資料等

『ジーニアス英和辞典』大修館書店 等各種辞書類

学生に対する評価

定期試験 (50%)、TOEIC Bridge (20%)、授業への参加度 (15%)、小テスト (15%) の割合で評価する。

授業科目名： 英会話 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Bondoc、Halliday、Hayes、 Marshall 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
1) より流暢に、長く会話ができる 2) 実際の場面で満足いくコミュニケーションをとるために、必要な会話ができる			
授業の概要			
これまでに学んだ英会話の中から、会話の組み立て方を中心に、会話の基本を集中的に学びます。繰り返し学習することが重要となります。			
授業計画			
第1回：Unit 1 (Yes-No questions/Simple Present/Pronouns) Focus: exchange of personal information.			
第2回：Review (45minutes) grammar/vocabulary. Listening, video-viewing. Communication Activity: Jobs			
第3回：Review(45minutes): share homework. Unit 2 (Wh-questions/Simple Present) Focus: everyday activities; talking about life as a student. Communication Activity: Find someone who.			
第4回：Review (45minutes) grammar/vocabulary. Unit 2 Video viewing.			
第5回：Review(45minutes): share homework. Unit 3 (Can/Can't; like -verb/noun) Focus: free-time activities.			
第6回：Review (45minutes)grammar/vocabulary. Unit 3 Communication Activity: Interview (interests). Skills expansion.			
第7回：Review (45minutes) Unit 1-3 Listening, Language review, Presentation: Self-introduction			
第8回：Review (45minutes) Unit 4 (can/can't for possibility) Focus: hometowns and neighborhoods Communication Activity: Describing a place and identifying differences.			
第9回：Review(45minutes) grammar/vocabulary. Unit 4 Tell your partner about your hometown. Role play conversations about hometowns.			
第10回：Review(45minutes): share homework.			

Unit 5 (asking for, giving directions) traveling around.

第1 1回: Review(45minutes) grammar/vocabulary.

Unit 5 Communication Activity: Giving and asking for directions

第1 2回: Review(45minutes): share homework.

Unit 6 (How much is this/that? How much are these/those?)

Focus: everyday items; shopping.

Communication activity: Role play customer and salesclerk buying and selling.

Take a shopping survey

第1 3回: Review(45minutes): grammar/vocabulary. listening.

Unit 6 video-viewing. Preparation(45minutes): Unit 4-6 review

第1 4回: Review(45minutes): Unit 4-6 Listening, Language review,

Presentation: Introducing your hometown. General Review Activities

第1 5回: Oral examination

定期試験

テキスト

「Breakthrough Plus 1」 Craven Macmillan

参考書・参考資料等

なし。

学生に対する評価

授業への参加度 (20%)、授業内の課題 (20%)、面接試験 (30%)、定期試験 (筆記試験) (30%) で評価する。

授業科目名： 英会話Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： Bondoc、Halliday、Hayes、 Marshall 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
1) より流暢に、長く会話ができる			
2) 実際の場面で満足いくコミュニケーションをとるために、必要な会話ができる			
授業の概要			
これまでに学んだ英会話の中から、会話の組み立て方を中心に、会話の基本を集中的に学びます。繰り返し学習することが重要となります。			
授業計画			
第1回：Catching up after the vacation. Unit 7 (Present Continuous; Affirmative/Negative Questions) Focus: things happening now. Review (45 minutes)			
第2回：Review(45minutes)： Grammar/Vocabulary. Communication Activity: identifying differences. / Similarities in your lives.			
第3回：Review(45 minutes)： share homework. Unit 8 (Be like/ Look like; Adjectives of Appearance) Focus: describing people.			
第4回：Review(45minutes)： Grammar/Vocabulary. Communication Activity: identifying people/describing famous people. Video viewing.			
第5回：Review(45minutes)： share homework. Unit 9 (Present Continuous for Plans; invitations) Focus: social arrangements. Communication Activity: identifying people's			
第6回：Review(45 minutes)： Grammar/Vocabulary. Pairwork: Talking about your future plans; Video viewing			
第7回：Unit 7-9 Listening, Language Review, Presentation: Talk about a friend Review(45minutes)： grammar.			
第8回：Unit 10 (Simple past; Affirmative/Negative Questions) Focus: vacations. Communication Activity: Report on Somebody's Vacation Review(45 minutes)： Grammar/Vocabulary.			
第9回：Review(45minutes)： Grammar/Vocabulary. Pairwork: Relate a vacation you remember well. Video viewing.			

第10回: Review(45 minutes): share homework. Unit 11 (Simple Past; Wh-questions)
Focus: milestones in life. Communication Activity: Ask questions about a famous person.

第11回: Review(45 minutes) Grammar/Vocabulary.

Pairwork: Interview a partner and exchange information in a group. Video viewing

第12回: Review(45minutes): share homework. Unit 12 (Going to; want to/would like to)

Focus: ambitions. Communication Activity: Groupwork: Find someone who.

第13回: Listening, Language Review,

Presentation: Talk about past achievements and future ambitions. Review(45 minutes)

第14回: General Review

第15回: Oral examination

定期試験

テキスト

「Breakthrough Plus 1」 Craven Macmillan

参考書・参考資料等

なし。

学生に対する評価

授業への参加度 (20%)、授業内の課題 (20%)、面接試験 (30%)、定期試験 (筆記試験) (30%) で評価する。

授業科目名： 中国語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 程 凱、吉田 仁 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・中国語を学習するための基礎的な語彙を習得する。 ・挨拶などの簡単な慣用表現を使うことができるようになる。 ・単文とその疑問文を修得し、簡単な自己紹介と会話ができる。 ・日頃から中国の生活や文化に関心を持ち、中国語を使ってみようという態度を醸成する。 			
授業の概要			
<p>外国語としての中国語を理解し、初級レベルのコミュニケーション能力を身に付けるために、初歩的な発音と基本的な文法の定着に重点を置く。本文の会話を中心に、ピンイン表記による中国語の正確な発音、聞き取り、簡単な中国語の文型による文法等の初歩的段階での総合的な学習をする。特に、正確な発音と、聞くことのできる基本を身につける。また中国語の学習を通じて、関係を深める隣国の人々と共に生きるため、現代中国の文化や社会、人々の暮らしについて知る。</p>			
授業計画			
第 1 回：ウォーミングアップ、発音（1）声調（2）声調の組合せ（3）単母音 p6-8			
第 2 回：発音（4）子音 p8-9			
第 3 回：発音（5）複合母音（6）-n-ngをともなう母音 トレーニング p11-12、チャレンジ p1			
第 4 回：第1課「あなたは中国人ですか」単語と本文・ポイント1-1.1-2			
第 5 回：第1課「あなたは中国人ですか」トレーニング p16、チャレンジ p2			
第 6 回：第2課「これは何ですか」単語と本文・ポイント2-1.2-2.2-3.2-4 p16-19			
第 7 回：第2課「あなたは中国人ですか」トレーニング p20、チャレンジp3			
第 8 回：中間テスト PC体験もしくはビデオ視聴			
第 9 回：第3課「どこへ行きますか」単語と本文・ポイント3-1.3-3.3-3 p21-23			
第 10 回：第3課「どこへ行きますか」トレーニング p24、チャレンジp4			
第 11 回：第4課「このカバンはいくらですか」単語と本文・ポイント4-1.4-2.4-3.4-4 p25-27			
第 12 回：第4課「このカバンはいくらですか」トレーニング p28、チャレンジ p5			
第 13 回：第5課「夕方用事がありますか」単語と本文・ポイント5-1.5-2.5-3 p29-31			
第 14 回：第5課「夕方用事がありますか」トレーニング p32、チャレンジ p6			
第 15 回：総復習			
定期試験			

テキスト

「中国語はじめの一步」尹 景春・竹島 毅、白水社

参考書・参考資料等

なし。

学生に対する評価

リスニングを含む定期試験に対する評価（60％）

授業中に実施する中間テスト・予習や課題への取り組み・および授業への積極的な参加等の授業態度に対する評価（40％）

以上を総合し、成績の評価を行う。

授業科目名： 中国語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 程 凱、吉田 仁 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国語を学習するための基礎的な語彙を習得する。 ・挨拶などの簡単な慣用表現を使うことができるようになる。 ・単文とその疑問文を修得し、簡単な会話ができる。 ・中国語検定準4級程度を目標とする。 ・日頃から中国の生活や文化に関心を持ち、困っている中国人旅行者の手助けをするなどの態度を醸成する。 			
<p>授業の概要</p> <p>外国語としての中国語を理解し、初級レベルのコミュニケーション能力を身に付けるために、初歩的な発音と基本的な文法の定着に重点を置く。本文の会話を中心に、ピンイン表記による中国語の正確な発音、聞き取り、簡単な中国語の文型による文法等の初歩的段階での総合的な学習をする。特に、文法の理解と、作文および翻訳できる基本を身につける。また中国語の学習を通じて、関係を深める隣国の人々と共に生きるため、現代中国の文化や社会、人々の暮らしについて知る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：中国語Ⅰの復習</p> <p>第2回：第6課「ご飯は食べましたか」単語と本文・ポイント6-1.6-2.6-3 p33-35</p> <p>第3回：第6課「ご飯は食べましたか」トレーニング p36 チャレンジ p7</p> <p>第4回：第7課「何人家族ですか」単語と本文・ポイント7-1.7-2.7-3 p37-39</p> <p>第5回：第7課「何人家族ですか」トレーニング p40 チャレンジ p8</p> <p>第6回：第8課「何時からアルバイトですか」単語と本文・ポイント8-1.8-2.8-3 p41-43</p> <p>第7回：第8課「何時からアルバイトですか」トレーニング p44 チャレンジ p9</p> <p>第8回：中間テスト PC体験もしくはビデオ視聴</p> <p>第9回：中間テストは授業中に返却し解説する。</p> <p>第10回：第9課「アメリカへ行ったことがありますか」トレーニング p48 チャレンジ p10</p> <p>第11回：第10課「歌を歌えます」単語と本文・ポイント10-1.10-2.10-3 p49-51</p> <p>第12回：第10課「歌を歌えますか」トレーニング p52 チャレンジ p11</p> <p>第13回：第11課「あなたは何をしているのですか」単語と本文・ポイント11-1.2.3.4 p53-55</p> <p>第14回：第11課「あなたは何をしているのですか」トレーニング p56 チャレンジ p12</p>			

第15回：総復習

定期試験

テキスト

「中国語はじめの一步」尹 景春・竹島 毅、白水社

参考書・参考資料等

なし。

学生に対する評価

定期試験に対する評価（60%）、授業中に実施する中間テスト・予習や課題への取り組み・および授業への積極的な参加等の授業態度に対する評価（40%）

以上を総合し、成績の評価を行う。

授業科目名： 情報リテラシーA	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 入江 洋子、鐘ヶ江 みづほ 小池 あずさ、吉田 郁子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報通信技術を用いて、多様な情報を適切に取捨選択し、分析活用するとともに、情報を発信できるようにする。</p> <p>(1) 文書作成ソフト（Microsoft Word）を使い、レポート、論文、ビジネス文書等を作成できるようになる。</p> <p>(2) 情報倫理やネチケットを守ってインターネットを利用することができるようになる。</p> <p>(3) ビジネスシーンでも通用する電子メールを作成できるようになる。</p> <p>(4) PCを使いこなすための基礎となるキーボード入力ができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>今日の社会では、あらゆる場面においてパソコンなど情報機器の使用やインターネットを利用した情報収集が不可欠になっている。このような情報化社会において、一般的な機器やソフトウェアの基本操作のほかに、ネット社会の一員として良識ある態度や自己防衛策を身につける必要がある。そこで、情報リテラシーAでは4年間の大学生活を送るうえで、最低限、身につけておくべきコンピュータ・リテラシー（コンピュータを使いこなす能力）、及び情報リテラシー（情報を使いこなす能力）を学習する。</p> <p>具体的には、情報倫理を踏まえたインターネットの使用、ビジネス文書やメールの構成を理解した上での、レポートや論文、一般的な文書作成、メールの送受信方法を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学内LANの使い方、PCの構成、OSとファイル管理の基本、タイピングと日本語入力の基本、現状把握のための調査実施</p> <p>第2回：Word 文字入力と編集、文書作成手順と文章編集の基本、キーボード入力</p> <p>第3回：Word 文書作成手順と文章編集の基本（文字編集、均等割り付け、インデント、オートコンプリート）、ビジネス文書のひな形</p> <p>第4回：Word 文書の構成要素と書式設定の基本 簡条書き、タブ</p> <p>第5回：Word 表と罫線</p> <p>第6回：Word 文章編集の復習、ページ設定</p> <p>第7回：電子メールの基本、添付ファイル、メールマナー等</p> <p>第8回：Word 図形描画と特殊効果文字</p>			

第9回：Word 文書作成演習

第10回：Word 文書作成の復習、キーボード入力確認

第11回：基本的な文書作成演習

第12回：Word 複雑な表、印刷

第13回：Word 高度な書式設定、論文作成、長文に必要な機能

第14回：Word 文書作成総合演習

第15回：総まとめ・知的財産権について

定期試験は実施しない。

テキスト

初歩から学ぶ情報リテラシー Office2019/2016 Windows10対応 吉田郁子著 培風館

参考書・参考資料等

なし。

学生に対する評価

受講態度と毎回出題する平常課題の提出状況及び内容（30%）、中間課題（20%）、期末課題等の内容（50%）を総合的に評価する。

授業科目名： 情報リテラシーB	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 入江 洋子、鐘ヶ江 みづほ 小池 あずさ、吉田 郁子 担当形態：クラス分け・単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報通信技術を用いて、多様な情報を適切に取捨選択し、分析活用するとともに、情報を発信できるようになる</p> <p>(1) 表計算ソフト (Microsoft Excel) を使い、表形成と適切な計算式を使用した表を作成できるようになる。</p> <p>(2) 表計算ソフト (Microsoft Excel) を使い、用途に応じたグラフを作成できるようになる。</p> <p>(3) 表計算ソフト (Microsoft Excel) を使い、簡単なデータベース操作により必要なデータを得られるようになる。</p> <p>(4) プレゼンテーション作成ソフト (Microsoft PowerPoint) を使い、見やすくわかりやすいスライドを作成し、説得力のある発表ができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現在では企業だけでなく様々な組織で、パソコンを用いたデータの分析・視覚化が必要とされるようになってきている。また、わかりやすく視覚的にもインパクトのあるプレゼンテーションも活用される場面は多い。そこで、情報リテラシーBでは、表計算ソフトによるデータの分析方法と、プレゼンテーション作成ソフトを使用した研究発表・企画提案の方法を学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：現状把握のための調査、表計算ソフトの基本的なしくみと特徴、データの入力方法</p> <p>第2回：計算式の入力の基本、簡単な計算、行・列の挿入と削除</p> <p>第3回：絶対参照を使った計算、演習、表の編集</p> <p>第4回：絶対参照の復習、関数の活用 (ROUND系関数、IF関数)</p> <p>第5回：関数の復習 (IF関数、RANK関数)、演習</p> <p>第6回：並べ替え、計算式の復習・表の編集、演習 (情報処理技能検定試験 表計算 3級レベル問題)</p> <p>第7回：グラフの作成・編集の基本</p> <p>第8回：グラフの作成・編集、複合グラフ</p> <p>第9回：中間課題 (EXCELの基本の習得確認)</p> <p>第10回：ExcelのVLOOKUP関数、演習 (情報処理技能検定試験 表計算 準2級レベル問題)、PowerPointのプレゼンテーションスライド作成の基本</p>			

第11回：プレゼンテーションスライド作成の基本、アニメーション効果の設定とスライドショー

第12回：Excelの復習の演習（情報処理技能検定試験 表計算 準2級レベル問題）、

発表用プレゼンテーション資料作成（期末課題）

第13回：Excelの復習課題、発表用プレゼンテーション資料作成（期末課題）

第14回：発表用プレゼンテーション資料作成（期末課題）

第15回：まとめ、ミニプレゼンテーション

定期試験は実施しない。

テキスト

初歩から学ぶ情報リテラシー Office2019/2016 Windows10対応 吉田郁子著 培風館

参考書・参考資料等

なし。

学生に対する評価

受講態度と毎回出題する平常課題の提出状況及び内容（30%）、期末課題等の内容（70%）を総合的に評価する。

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 烏田 直哉 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 教育の基本的概念 到達目標：1) 教育の意義、目的・目標、教育の本質や理念などの基本的概念を理解している。2) 教育を成り立たせる要素（子供、教員、家庭、学校など）とそれらの相互関係を理解している。</p> <p>(2) 教育に関する歴史 到達目標：1) 育児や地域社会による子育てなどの私教育の歴史を理解している。2) 近代公教育の成立・展開を理解している。3) 現代社会や学校の抱える教育課題を歴史的視点を踏まえて理解している。</p> <p>(3) 教育に関する思想 到達目標：1) 家庭や子育てに関わる教育の思想を理解している。2) 学校や学習に関わる教育の思想（教育内容と方法）を理解している。3) 著名な教育家の思想を理解している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、教育の基本的理念や理念とは何か、西洋や日本の教育の歴史や教育をめぐる思想において、それらがどのように現れてきたのかについて学習する。また、これまでの教育や学校、社会や家庭における教育の営み（内容・方法・制度）が国の内外においてどのように捉えられ、歴史的変遷をたどってきたのか、さらにはその現状・改革について理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育の基本的概念、教育の意義・目的・目標、理念</p> <p>第2回：教育の役割と子供の社会化（人間形成と学校、学校・社会・家庭との関係）</p> <p>第3回：教育の歴史と思想（1）西洋の教育の歴史と思想（古代～近世）</p> <p>第4回：教育の歴史と思想（2）西洋の教育の歴史と思想（近代～現代）</p> <p>第5回：教育の歴史と思想（3）日本の教育の歴史と思想（奈良・平安～江戸）</p> <p>第6回：教育の歴史と思想（4）日本の教育の歴史と思想（明治～昭和・平成）</p> <p>第7回：教育の内容と方法（1）教育課程と学習指導要領</p> <p>第8回：教育の内容と方法（2）学習指導</p> <p>第9回：教育の内容と方法（3）教育方法・評価</p> <p>第10回：教育の制度（1）学校制度と公教育の諸原理（義務・無償・中立性、機会均等）</p> <p>第11回：教育の制度（2）教育法規</p> <p>第12回：教育の制度（3）教育行政</p> <p>第13回：教育の制度（4）教員養成</p>			

第14回：現代社会における教育課題 (1) 学校の抱える問題とその対応

第15回：現代社会における教育課題 (2) 新しい時代に向けての教育改革の取り組み

定期試験

テキスト

『教員採用試験対策 教職教養 I [教育原理 教育史]』平成29年 東京アカデミー編 七賀出版

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領 (平成29年3月 文部科学省)

中学校学習指導要領 (平成29年3月 文部科学省)

『大教育者のことば』(平成19年 井上久雄著・川口雅昭編訳 致知出版)

学生に対する評価

筆記試験(定期試験60%)並びに受講態度・予習・復習の課題等(40%)に基づいて、総合的に評価する。

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西淵 茂男 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 教職の意義 到達目標：1) 公教育の本質及び目的を理解し、その担い手である教員の職務の喜びと苦悩を知り、自ら調べ、論理的に発表することができる。 2) 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職のもつ職業的特徴を説明することができる。</p> <p>(2) 教員の役割 到達目標：内外の教職内容の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる資質能力とは何なのかを授業を通して討論し、自ら論じることができる。</p> <p>(3) 教員の職務内容 到達目標：幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を捉え、専門職として生涯にわたって「学び続けることと教育」について仮説を立て述べるができる。</p> <p>(4) 教師と「チーム学校」 到達目標：校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と「効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応する」ことによって何が違い、何が変わるのかをみんなで討議し、自らの学びに生かすことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、自らの学校生活（初等教育及び中等教育）から、教員とはどのような存在であるかを考え、教職の意義、教員の使命と役割、教員の職務内容と責任、教員の研修、サービス、身分保障等について自ら調べ、グループでまとめ、プレゼンテーションを行い、みんなでディスカッションすることによって理解する。また、自らについて、教員適性の自己点検をし、自らを高めるために何が必要かを理解するとともに、今後教員としてのあるべき姿をみんなで探究していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育の意義と目的、日本の教育のシステムの充実（教育内容・教育機会の均等保障）と教職</p> <p>第2回：教職に向けての大学での学び、大学における教師養成教育</p> <p>第3回：教師像の変遷と教師論（聖職者論、専門職論）</p> <p>第4回：教員養成の制度と歴史（教員免許制度、教員免許状の種類）</p> <p>第5回：教員採用制度（選考試験と任用の制度）</p> <p>第6回：教員の資質向上と研修（問われている教員の資質と能力、教員研修の意義）</p> <p>第7回：教職の意義、教育職員の種類と職務</p> <p>第8回：教員の使命と役割（日米の実践的知識のちがいがい）</p> <p>第9回：教員の職務内容と責任①（生活指導、学習指導、教師の成長と発達）</p> <p>第10回：教員の職務内容と責任②（特別活動と生徒指導、教育相談、教師集団）</p>			

第11回 : 教員の勤務と服務、教師の専門性の確保と研修

第12回 : 教員の地位、待遇と身分保障 (教職の専門性の変化、協働と専門性)

第13回 : 学校づくりと学校経営 (チーム学校)

第14回 : 教職適正の自己点検と今後の教職課程履修のあり方

第15回 : 学校と教師の現代的課題 (今求められる教師の専門性と使命)

定期試験

テキスト

小島弘道他「(改訂版) 教師の条件」学文社、2016

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領 (平成29年3月 文部科学省)

中学校学習指導要領 (平成29年3月 文部科学省)

高等学校学習指導要領(最新版 文部科学省)

学生に対する評価

筆記試験 (定期試験60%)、予習・復習の課題の発表、レポート課題等 (40%) に基づいて評価する。

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 健治 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 ・学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例をふまえて理解する。 ・学校の管理下で起こる事件、事故および災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>現代の学校教育に影響を与える社会環境要因や近年の教育改革、最新の教育政策の動向を検討しながら、学校教育制度や教育財政のしくみに関する基礎的な知識を習得することを目指す。また、学校と地域の連携など各地の学校改善の取り組みや地方自治体の教育改革実践などを紹介するとともに、学校事故と学校安全、いじめや体罰の問題、就学前教育と子育て支援行政など、近年の教育をとりまく多様な課題に対して、教育制度・教育行政がどのように取り組んでいくべきかを考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：現代の学校と教育制度について</p> <p>第2回：公教育の基本原則について：日本国憲法と教育基本法</p> <p>第3回：文部科学省と教育政策について</p> <p>第4回：教育委員会制度について</p> <p>第5回：教育財政のしくみについて</p> <p>第6回：教育課程行政と教科書制度について</p> <p>第7回：義務教育制度と教育を受ける権利について</p> <p>第8回：学校組織と学校経営について：「チームとしての学校」・学校と地域の連携</p> <p>第9回：教職員制度と教師の仕事について</p> <p>第10回：子どもの権利といじめ問題について</p> <p>第11回：子どもの貧困と高校中退問題について</p> <p>第12回：学校教育における現代的課題（グループワーク）</p> <p>第13回：就学前教育と子ども子育て支援行政について</p> <p>第14回：学校安全と危機管理について</p> <p>第15回：教育制度から見る現代社会</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

教育行政学—子ども・若者の未来を拓く改訂版（平成29年 横井敏郎編著 八千代出版）

参考書・参考資料等

教育改革のゆくえ—国から地方へ（平成22年 小川正人 ちくま新書）

教育委員会改革5つのポイント—「地方教育行政法」のどこが変わったのか（村上祐介編著 学事出版）

学生に対する評価

定期試験（60%）及び授業への参加度合いや課題レポート（40%）等に基づき総合的に評価する。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 龍 祐吉 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 授業のテーマ「今日の教育実践現場で生きる教育心理学的知識や技能を学ぶ」</p> <p>2. 到達目標 1) 発達の概念や教育における発達理解の意義を理解している。2) 発達段階ごとの発達の諸相の具体的内容を理解している。3) 今日の教員に求められる役割を理解している。4) 今日の教員に求められる教員の基礎的な資質について理解している。5) 多様な学習の形と学習の過程、及び基礎的な学習の理論を理解している。6) 主体的な学習に係る動機づけ、学級集団作り、学習評価について、子どもの発達の特徴を踏まえて理解している。7) 子どもの主体的な学習活動に求められる教師の指導的役割について理解している。</p>			
授業の概要			
<p>学習の内容については、「児童生徒の心身の発達の形成要因、発達の過程と発達の諸相」、「今日の教育に求められる教師の役割や資質」及び「子どもの学習を支援する際の基礎的な知識と具体的な指導法に関する考え方」を基軸として、「発達」「教育的環境としての教師の役割」「学習の基礎」「個性と評価」「学級集団」「学校生活支援」の領域を理解することを目的とする。「講義科目」であるが、可能な限り受講者の主体的な学習活動を求める。すなわち、課題ごとの小集団内の相互評価、全体での課題発表と質疑・応答などを実施する。</p>			
授業計画			
第1回：教育心理学で何を学ぶのか：教育心理学の目的と方法及び領域			
第2回：発達とは何かⅠ：発達の意味と発達の概念及び発達の過程			
第3回：発達とは何かⅡ：発達の諸相（運動の発達、言語の発達）			
第4回：発達とは何かⅢ：発達の諸相（認知発達、社会性の発達）			
第5回：教育的環境としての教師の役割Ⅰ：教育観や子ども観に関わる効果的な働きかけとは			
第6回：教育的環境としての教師の役割Ⅱ：児童生徒と指導過程とその児童生徒への影響			
第7回：子どもの学習の基礎とは何かⅠ：学習の意義と学習理論			
第8回：子どもの学習の基礎とは何かⅡ：学業的動機づけと学習の効率			
第9回：子どもの学習の基礎とは何かⅢ：様々な学習指導法			
第10回：子どもの個性と成績の評価Ⅰ：子どもの性格と知的能力の評価			
第11回：子どもの個性と成績の評価Ⅱ：学力観と学力の評価			
第12回：学級集団とは何かⅠ：学級集団の意義と形成の過程			
第13回：学級集団とは何かⅡ：学級集団の構造とその崩壊			
第14回：学校生活の支援Ⅰ：小1プロブレム、不登校、いじめ及び適応障がい			

第15回：学校生活の支援Ⅱ：特別支援，発達障がい，教師のカウンセリングマインド
定期試験

テキスト

講義用の資料を配付する。

参考書・参考資料等

発達と教育の心理学（平成23年 増田公男（編著） あいり出版）

学生に対する評価

授業ごとの小レポート提出（合計15回）（30%），課題のプレゼンテーション（2回）（15%），
学期末レポート（55%）

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 飯塚 一裕 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒を対象とする教育は、一人ひとりの特別なニーズに基づき、適切な指導と必要な支援を行う特別支援教育として位置づけられている。特別支援教育では、対象となる幼児、児童及び生徒が、持てる力を高め、学習活動に参加している実感・達成感をもちながら、将来の自立や社会参加に向けた主体的な学びを支援することが求められる。この授業では、特別支援教育を行うに当たり必要とされる、①幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解すること、②個別の教育的ニーズを把握すること、③個別のニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解すること、を到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>前半では主に障害児・者に関する基本的な教育制度についての知識を理解した上で、特別支援教育についての理解を深める。後半は特別支援学校や小・中学校における障害児を対象とした教育に関して紹介し、教育現場における取り組みの現状と課題、今後の方向性について展望する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別支援教育の理念と基本的な考え方</p> <p>第2回：障害児教育の歴史・特別支援教育にかかわる制度</p> <p>第3回：学習指導要領と教育課程の編成・自立活動と個別の指導計画の作成</p> <p>第4回：障害のある児童生徒の理解</p> <p>第5回：発達障害のある児童生徒の理解と特性に応じた支援</p> <p>第6回：小・中学校等における特別支援教育（特別支援学級・通級指導）</p> <p>第7回：小・中学校等における特別支援教育（通常の学級における特別の教育的ニーズのある児童生徒の支援）</p> <p>第8回：関係機関との連携・保護者支援について</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>毎回講義資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

はじめての特別支援教育 改訂版 教職を目指す大学生のために（平成26年 柘植雅義他 有斐閣）

学生に対する評価

定期試験（80%）と受講態度（20%）により総合的に評価する。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 的場 正美 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学生は、教育課程の基礎概念、学習指導要領の変遷、学校におけるカリキュラム・マネジメント、授業における教育課程の展開を学ぶことを通して、次の目標を達成する。1) 学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。2) 教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。3) 意欲的に学習に取り組む態度、時代や環境の変化に対応できる優れた実践的能力を身につけるとともに、教職への関心をもつことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領の改訂によって、学習内容の厳選がなされると同時に、「生活科」や「総合的な学習の時間」が導入され、「生きる力」を学ぶ新しいカリキュラムの開発が必要になった。この歴史的経過を振り返りつつ、教科中心カリキュラムと経験中心カリキュラムの考え方に関する考察、現行教育課程の諸問題、わが国における新しいカリキュラムの取り組みなどについて学ぶなかで、カリキュラム編成の基礎的能力を育成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（講義の全体概要と授業の進め方）。カリキュラムと教育課程の概念の成立。</p> <p>第2回：カリキュラムの固有性と関連領域</p> <p>第3回：カリキュラムはどのような理論的基礎を有しているか。</p> <p>第4回：教育課程はだれによってどのような根拠で編成されるのか。教育課程編成権および法的根拠。</p> <p>第5回：どのように教育課程は運営されるのか：教育課程行政とカリキュラム・マネジメント。</p> <p>第6回：学習指導要領の時期区分、経験主義カリキュラム、科学志向カリキュラム。</p> <p>第7回：個性重視のカリキュラム</p> <p>第8回：コンピテンシー形成のカリキュラム。</p> <p>第9回：教育内容の現代化による教育内容精選。</p> <p>第10回：研究開発校におけるカリキュラム開発研究。</p> <p>第11回：カリキュラム開発理論のモデル（アメリカ、イギリス、ドイツの開発理論）と構成原理。</p> <p>第12回：学校における年間カリキュラムと単元構成</p>			

第13回：授業とカリキュラム

第14回：国際機関によるカリキュラム開発研究と普及

第15回：教師は教育課程をどのように評価するのか。教育課程評価と授業研究。まとめ。
定期試験は実施しない。

テキスト

カリキュラムと授業（平成30年 的場正美）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）

よくわかる教育課程（平成21年 田中耕治編 ミネルヴァ書房）

その他参考文献を授業の中に適時指示する。

学生に対する評価

毎回の予習課題と復習課題の達成度と授業後の理解度テスト（20%）、3回の小レポート（30%）、最終レポート（50%）により総合的に評価する。

授業科目名： 道徳理論と指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 佳子
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己に生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。本講義を通し、学生は、道徳の意義や原理等の基礎的知識を習得し、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画、評価方法等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領「道徳」の内容を基本として、「考え、議論する」道徳の授業をめざす実践的な指導力を身に付ける。一方的な講義ではなく、常に受講者が主体となる対話のある授業を重視する。そのために、道徳教育の意義、変遷、内容など基礎的内容を講義し、指導計画の立案の方法、指導方法、学習指導案の作成方法、そして評価について学生は学び、それを基礎に具体的な指導案を作成し、模擬授業を行い、評価をし、再設計する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：講義の目標、道徳教育の現状</p> <p>第2回：道徳教育の目標と意義、変遷、特別の教科としての道徳</p> <p>第3回：道徳の授業づくり(1) 児童生徒の実態、道徳科の目標、指導内容項目とねらい、指導計画、教材</p> <p>第4回：道徳の授業づくり(2) 道徳授業のポイント、一般的な授業の流れ</p> <p>第5回：道徳の授業づくり(3) 様々な指導方法、質の高い指導方法</p> <p>第6回：道徳の授業づくり(4) 道徳学習指導案の作成方法、ワークシート・ノートの活用</p> <p>第7回：道徳の授業づくり(5) 道徳授業の評価</p> <p>第8回：模擬授業ガイダンス</p> <p>第9回：グループ別模擬授業(1)：グループでの題材探求</p> <p>第10回：グループ別模擬授業(2)：グループでの授業計画の立案</p> <p>第11回：グループ別模擬授業(3)：第1グループの発表と相互検討</p> <p>第12回：グループ別模擬授業(4)：第2グループの発表と相互検討</p> <p>第13回：グループ別模擬授業(5)：第3グループの発表と相互検討</p>			

第14回：グループ別模擬授業(6)：授業計画の評価と再計画

第15回：講義のまとめ、めざす道德教育

定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

私たちの道德 小学校用（最新版 文部科学省）

私たちの道德 中学校用（最新版 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 道德編（最新版 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 道德編（最新版 文部科学省）

学生に対する評価

(1) 受講態度や発言内容・グループワークでの活動から、道德を実践する教師としての資質を評価する。(20%)

(2) ワークシートを用いて、講義に関する記述内容から、道德教育・道德科等への理解度について評価する。(30%)

(3) 指導案作成・模擬授業等までの取り組みについて評価する。(30%)

定期試験の結果(20%)を上記の(1)から(3)までの評価結果と総合して、最終評価を行う。

授業科目名： 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 的場 正美 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習と自治的集団の学習を通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す授業論をテーマとする。実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。特別活動論において学生は、1) 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容、2) 学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質、3) 特別活動の評価・改善活動の重要性、4) 合意形成に向けた話し合い活動の意義と指導のあり方を理解できる。総合的な学習の時間の指導法において学生は、1) 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と目標、2) 各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することができる、3) 主体的・対話的で深い学びを実現するような総合的な学習の時間の単元計画を作成と評価ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育全体における特別活動の意義を理解し、特別教育の歴史的変遷、各領域の目標と内容及び授業の計画と評価について学習する。総合的な学習の時間の意義、各学校においてその目標及び内容を定める際の考え方、指導計画、評価の具体的知識と技能を学生は学ぶ。「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 日本と外国の特別活動と教育課程</p> <p>第2回： 自由研究と特別教育活動</p> <p>第3回： 特別活動の成立とその内容</p> <p>第4回： 学級活動・ホームルーム活動の目標と内容及び具体例</p> <p>第5回： 児童会・生徒会活動の目標と内容及び具体例</p> <p>第6回： クラブ活動と学校行事の目標と内容及び具体例</p> <p>第7回： 特別活動の授業研究：授業の評価と改善</p> <p>第8回： 特別活動の人間形成。心理学的側面、社会学的側面から特別活動の人間形成の機能</p> <p>第9回： 総合的な学習の時間の教育課程における位置（目標と資質・能力）</p>			

第10回：総合的な学習の時間と他教科との連携

第11回：総合的な学習の時間とESD教育（国際理解・異文化理解）

第12回：総合的な学習の時間の指導計画の作成

第13回：総合的な学習の時間の指導と評価

第14回：総合的な学習の時間と授業研究：教師の成長

第15回：学習全体のまとめと振り返り 特別活動及び総合的な学習の時間のこれからの課題と展望
定期試験

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）

特別活動と総合的な学習の時間（平成30年 的場正美）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

定期試験（60%）、理解度テスト（20%）、小レポート課題（20%）の総合評価により、成績を評価する。

授業科目名： 教育方法・技術論（ICT 活用を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 的場 正美 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法・技術をテーマとする。学生は、次の目標を達成する。1)問題解決と主体的・対話的で深い学びの意味を理解できる。2)教育方法の理論と歴史の基礎知識を身に付ける。3)子どもの興味・関心を高めるICTや情報機器を活用した教材等を作成する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、教育方法に関する思想及び理論、明治時代からの教育方法の歴史と戦後の学習指導要領の編成について講義する。また、授業を計画、実施、評価、反省、改善という一連の過程として捉え、カリキュラム・単元構成研究、授業計画論、教育方法論について講義する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の全体構造、授業方法、ICT活用など受講生に必要とされる準備などオリエンテーション</p> <p>第2回：教育方法の技術：情報化社会の教育、メディアと教育、ICTと教育方法</p> <p>第3回：明治期の教育方法（1）：明治初期の欧米文化の移入、一斉授業の導入、開発教授法（デジタル資料の活用による教育方法史理解）</p> <p>第4回：明治期の教育方法（2）：ヘルバルト主義の5段階教授法の教育方法（デジタル資料の活用による教育方法史理解）</p> <p>第5回：世界の新教育運動と日本の新教育運動（デジタル資料の活用による教育方法史理解）</p> <p>第6回：日本の新教育運動。手塚岸衛の自由教育と篠原助市の思想（デジタル資料の活用による教育方法史理解）</p> <p>第7回：日本の新教育運動。及川平治の教育思想（デジタル資料の活用による教育方法史理解）</p> <p>第8回：コア・カリキュラム運動</p> <p>第9回：問題解決学習の理論と実践（子どもの問題の発見と解決過程への参加）</p> <p>第10回：戦後の教育方法：仮説実験授業（デジタル資料の活用による教育方法史理解）</p> <p>第11回：現代の教育方法。協同学習とアクティブラーニング</p> <p>第12回：授業論と指導方法：個としての子ども理解と授業の展開</p> <p>第13回：授業論と指導方法：指導案の類型と授業展開</p> <p>第14回：授業論と指導方法：学習指導要領における言語活動</p>			

第15回： 学習形態：一斉授業、協同学習、グループ学習

定期試験

テキスト

教育方法の理論と実践（平成30年 的場正美）

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領解説編（最新版 文部科学省）

小学校学習指導要領解説編（平成29年6月 文部科学省）

中学校学習指導要領解説編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説編（最新版 文部科学省）

授業中に適宜資料を指示する。

学生に対する評価

理解度テストとリアクションペーパー（20%）、授業での発表と活動内容（15%）、小レポート3回（15%）、最終レポート（50%）による総合評価により成績を評価する。

授業科目名： 生徒指導論（進路指導を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青木 一起 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導を管理監督、非行防止といった消極的な視点からではなく、児童生徒の言動の背景を理解し、受容、共感、援助できるようになる。 ・児童生徒の個人の尊厳と人格を尊重し、その夢を喚起させ、生きる力を養う進路指導ができるようになる。 ・生徒・進路指導における、家庭、地域、関係機関との連携のあり方を身に付けることができる。 ・キャリア教育における体験活動、評価改善や関係機関との連携の実際を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からでなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により、児童生徒の生きる力を養う生徒指導のあり方を求める。進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。これらの学習を通して、生徒指導にあたる教員のあり方及び人間観について具体的に指導する。本授業では、具体例を通して、より実践的に内容を理解し、生徒指導・進路指導に対する考え方を確立することが主たる目的である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 生徒指導・進路指導とは</p> <p>第2回 生徒指導・進路指導の年間計画と全校指導体制</p> <p>第3回 生徒指導・進路指導・キャリア教育と教育相談</p> <p>第4回 児童生徒理解の方法と指導</p> <p>第5回 集団の理解と指導</p> <p>第6回 児童生徒理解の方法進路指導・キャリア教育との関連</p> <p>第7回 学級の荒れの理解と指導</p> <p>第8回 各教科、道徳、特別活動等の指導と生徒指導・進路指導・キャリア教育</p> <p>第9回 児童生徒の問題行動の理解と指導</p> <p>第10回 不登校の理解と指導</p> <p>第11回 いじめの理解と指導</p> <p>第12回 発達障害（特別支援教育）の理解と生徒指導</p> <p>第13回 反社会的問題行動の理解と指導</p>			

第14回 キャリア教育における体験活動、評価改善や関係機関との連携の実際

第15回 家庭・地域・関係機関との連携、まとめ

定期試験

テキスト

必要に応じて授業時間に資料を配付する。

小学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）

小学校学習指導要領解説（平成29年6月 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）

中学校学習指導要領解説（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説（最新版 文部科学省）

参考書・参考資料等

生徒指導提要（平成21年 文部科学省）

小学校 キャリア教育推進の手引（平成18年）

中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引（平成18年）

高等学校 キャリア教育推進の手引（平成18年）

その他必要に応じて授業時間に紹介する。

学生に対する評価

定期試験（60%）、課題に関する提出物・受講態度（40%）により総合的に評価する。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河野 順子 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え支援するために必要な基礎的知識および技法を身に付ける。到達目標は次の4点である。①学校教育相談の意義と理論を理解している。②教育相談に必要とされる発達理論・不適応行動の心理的意味を理解している。③カウンセリングに関する理論および基礎的な方法について理解しており、実践するための基本的方法を身につけている。④教育相談を進める具体的なプロセスおよび組織的な取り組みや保護者、関係機関との連携の必要性について理解している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育相談は全ての幼児児童生徒の発達を支援、心理的成長を促す学校における教育実践活動であるという意義をふまえ、必要とされる基礎的な理論と方法を論じ、それに基づいて実践に結びつくように演習も交えた学習を進めて行く。基礎的な理論では、乳幼児期・児童期・青年期の心の発達理論や心理的な問題・不適応行動を学ぶ。支援する方法として、カウンセリングの技法や応用行動分析の技法を演習する。また、学校組織としての支援体制、保護者、関係機関との連携のあり方についても学ぶ。これらの学習を統合することにより、幼児児童生徒ひとり一人の発達支援を念頭においた教育相談活動の実践に結びつくよう授業を展開する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 教育相談の概念と意義</p> <p>第2回： 教育相談に関わる発達理論① ーエリクソン発達理論：生涯発達の視点からみた幼児児童生徒の心の発達ー</p> <p>第3回： 教育相談に関わる発達理論② ーエリクソン発達理論：乳幼児期の発達課題とそれを支える環境ー</p> <p>第4回： 教育相談に関わる発達理論③ ーエリクソン発達理論：児童期・青年期の発達課題とそれを支える環境ー</p> <p>第5回： 不適応と心理的な問題の意味と気づき</p> <p>第6回： 神経発達障害の理解と教育相談の進め方</p> <p>第7回： 不登校・登園渋りの理解と教育相談の進め方</p>			

第8回： いじめの理解と教育相談の進め方
第9回： 虐待と非行の理解と教育相談の進め方
第10回： 教育相談活動に生かせるカウンセリングの理論① カウンセリングマインドと傾聴
第11回： 紙上応答訓練と傾聴のロールプレイ
第12回： 教育相談活動に生かせるカウンセリングの理論② 応用行動分析
第13回： 事例による行動分析の実際
第14回： 教育相談の実際 はじまりから終了までの組み立てと進め方
第15回： 校内体制の整備と取り組みおよび関係専門機関との連携の意義と必要性
定期試験

テキスト

毎回の授業内容に応じたプリントを配付する。

参考書・参考資料等

教師のための初等教育相談（平成27年 西本絹子（著） 萌文書林）

小学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）、中学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）

、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）

学生に対する評価

受講態度10%、毎回授業終了時に記載する授業振り返りシート10%、定期試験80%

シラバス：教職実践演習

教職実践演習〔中・高〕	単位数：2単位	担当教員名： 教科担当：山岡武邦 教職担当：金津琢哉、烏田直哉、 河野順子、伊藤健治			
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	20人				
教員の連携・協力体制 全学部の教職課程の運営管理組織である教職課程運営委員会が、大学全体としての組織的な指導体制をとり、各学部の教職専門、教科専門教育担当者がオムニバス形式、チーム・ティーチングの形態等を適宜とり入れ、学生は教育ICTを活用しながら取り組むこととする。協働して本授業を担当し、評価を行う。					
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、教師として求められる5つの事項（①教職論、②組織・協働、③生徒指導、④学級経営、⑤学習指導）をテーマとし、そのそれぞれについて次のような到達目標を掲げる。 ①教職論…教職の意義と役割に対する基本的理解を踏まえ、望ましい教師像をもち、自らの到達点と課題を明確にすることができる。課題克服のための具体的手立てをもち、その達成に向けて努力できる。 ②組織・協働…校務分掌の意義や内容について理解し、組織の一員として各分掌間の連携を図った計画を立案することができる。保護者や地域の人たちの意見や要望に耳を傾け、連携・協力しながら課題に対処できる。 ③生徒指導…子どもに対してカウンセリング・マインドをもち、心身の発達や彼らを取り巻く周囲の状況や課題を理解し、適切な指導・支援を行うことができる。 ④学級経営…学級経営のための諸課題の背景や対策を検討し、組織的継続的に進めることができる。 ⑤学習指導…子どもの発達段階や既習内容、教材解釈をもとに、学習指導案を作成することができる。基本的な指導技術を駆使して、子どもの反応に応じた柔軟な指導ができる。「1人1台端末」時代の指導ができるようになる。					
授業の概要 大学4年間の教職課程履修において、培ってきた教師としての基礎的基本的な資質能力について確認する。併せて4年次において、これらの点について各自の課題を自覚し、不足している、あるいは補充・深化が必要であると考えられる領域における知識や技能を補い、定着を図る。					
授業計画 第1回：これまでの教職課程の学修についての省察（教職論①）（烏田） 第2回：授業を通して子どもを観る・育てる（教職論②）（烏田） 第3回：教材研究と学習指導案（学習指導①）（山岡） 第4回：模擬授業（知識の習得）と省察（学習指導②）（山岡）					

- 第5回：模擬授業（ICTの活用）と省察（学習指導③）（山岡）
 第6回：模擬授業（実技指導）と省察（学習指導④）（山岡）
 第7回：教科の指導力についての総括（学習指導⑤）（山岡）
 第8回：学校（学級）の1日（学級経営）（山岡）
 第9回：家庭との連携（組織・協働①）（金津）
 第10回：協働が求められる校務分掌（組織・協働②）（金津）
 第11回：発達段階に応じた子どもの理解と支援（生徒指導①）（河野）
 第12回：子どもの問題行動や悩み等への対応（生徒指導②）（河野）
 第13回：子どもに対するカウンセリング・マインド（生徒指導③）（河野）
 第14回：校内生活の危機管理（組織・協働③）（伊藤）
 第15回：魅力ある望ましい教師に向けて（教職論③）（山岡）

テキスト

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説、高等学校学習指導要領解説

学生に対する評価

各回の課題、小論文及びグループごとの討論、ロールプレイ等に基づいて総合的に評価する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。